

科目名	英語 (LR)	担当者名	(前期) 児嶋 一男
-----	---------	------	------------

講義の目標	英語を聴きとる訓練 (30 分) と英文の精読 (60 分)、戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。		
講義概要	TOEIC の問題集を使ってリスニングの訓練をする。 アメリカの人気劇作家ニール・サイモンの <i>I Ought to be in Pictures</i> をロールプレイ方式で読んでいきます。実際に上演される舞台を団体で鑑賞します (有料)。		
使用教材	テキスト	Neil Simon: <i>I Ought to be in Pictures</i> (プリント) TOEIC リスニング完全攻略 (ジャパンタイムズ社)	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	毎回の簡単な vocabulary テスト、前期・後期の定期試験など。		
受講者に対する要望など	第一回目の授業から読み始め、vocabulary テストをするので、最初の 5 ページ分を準備したもののみ出席すること。テキストは中央棟 5 階 504 室前に用意しておきます。		

科目名	英語 (LR)	担当者名	(前期) 飛田 ルミ
-----	---------	------	------------

講義の目標	英語の 4 技能におけるコミュニケーション活動に必要なスキルを効果的に習得することを目標とし、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の向上を目指す。		
講義概要	<p>リーディングは、ある程度の知的レベルの英文の大意を速く、正確に理解する練習を、現代のイギリスの散文から編集されたテキストを使用して行う。</p> <p>リスニングは現代のアメリカ文化・社会を紹介したビデオ教材、テキスト、プリント等を利用し、4 技能のリスニング、リーディングを中心に英文の大意を速く、正確に把握する訓練を行ないながら異文化理解を深める。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現方法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識したアクティブな学習活動を行ない実際に使える英語能力を身に付ける演習を展開する。</p>		
使用教材	テキスト	Inside Stories U.S.A. ビデオで学ぶアメリカ文化 成美堂 Read and Respond 朝日出版	
	参考文献	授業にて紹介する。	
評価方法	学期末試験、レポート、及び平常点（出席状況、授業内での発言、小テスト等）を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。		

年
間
授
業
計
画

- 1 . 講義概要・評価等について解説
- 2 . Inside Stories U.S.A. (以下 U.S.A.) : Chapter 1
- 3 . Read and Respond (以下 R&R) : Unit 1
- 4 . U.S.A. : Chapter 2
- 5 . R&R : Unit 2
- 6 . U.S.A. : Chapter 3
- 7 . R&R : Unit 3
- 8 . U.S.A. : Chapter 1,2,3 の復習
- 9 . R&R : Unit 1,2,3 の復習
- 10 . U.S.A. : Chapter 4
- 11 . R&R : Unit 4
- 12 . U.S.A. : Chapter 5
- 13 . R&R : Unit 5
- 14 . U.S.A. : Chapter 6
- 15 . R&R : Unit 6
- 16 . U.S.A. : Chapter 4,5,6 の復習
- 17 . R&R : Unit 4,5,6 の復習
- 18 . U.S.A. : Chapter 7
- 19 . R&R : Unit 7
- 20 . U.S.A. : Chapter 8
- 21 . R&R : Unit 8
- 22 . U.S.A. : Chapter 9
- 23 . R&R : Unit 9
- 24 . U.S.A. : Chapter 7,8,9 の復習

科 目 名	英 語 (LR)	担当者名	(前期)永野 隆行
-------	----------	------	-----------

講義の目標	インターネットの普及などにより、現代社会において、ますます英語は情報獲得のための重要なツールとなっているのではないだろうか。 このクラスでは、高校時代に得た英語力（読む力と聞く力）の一層の向上を目指す。		
講義概要	週2コマのうち、一方を指定テキストもしくは英字新聞などの切り抜きを読み進める英語講読（reading）の授業とし、他方を聞き取り（listening）中心の授業として進める。 講読の授業では英文テキストや新聞切り抜きの要約、部分訳、内容についての小テストを毎回実施する。 聞き取りの授業については、第一回目の授業において参加学生の英語聞き取り能力を判断した上で具体的な内容を決定する。		
使用教材	テキスト	教材についても、参加学生の英語力を第一回目の授業で判断した上で決定する。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	毎回の出欠、授業態度、学期末の試験などによる総合評価とする。なお講読の授業と聞き取りの授業のどちらか一方でも基準点を満たしていない場合は、たとえ他方の授業で優秀な成績を収めても、単位を取得することはできない。		
受講者に対する要望など	何のために大学に入ったのかを十分に考えた上で、授業に参加して頂きたい。		
年間授業計画	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	英 語 (SW)	担当者名	(前期)各担当教員
-------	----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This first term course will entail exposing students to the output skills of reading and writing twice a week, thereby building up quickly a solid foundation on which further progress can be made.</p>		
講 義 概 要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goal as laid out in the program goals (above).</p> <p>The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	スペイン語（入門・会話）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	--------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語（総合）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		
講 義 概 要	<p>（入門）では、映像・音楽なども使いながら、簡単なスペイン語史、スペイン語圏の地理・歴史・文化に係るスペイン語の基礎用語を学ぶ。また同時に、（総合）の補いとして、基礎語彙の習得、基本構文の練習を、ビデオ教材 <i>Viaje al español</i> などを使って行う。また、総合の進度にあわせて、確認の小テストを毎回おこなう予定である。（会話）では、語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使って、会話練習をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)</p> <p>そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。</p>	
	参 考 文 献	<p>スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。</p> <p>辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	
評 価 方 法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（入門・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が 60 点未満の場合には、（入門・会話）二単位の評価は、不可となるので注意のこと。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>スペイン語 の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>教科書「オーラ・アミーゴス」の文法項目に沿って、6 課あるいは 7 課まで学ぶ。主な文法項目は、名詞と形容詞、冠詞、基本動詞の使いかた、動詞直説法現在形の活用、点過去の活用である。教科書に準拠したテープ教材での練習が入る場合もある。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)	
	参 考 文 献	<p>スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。</p> <p>辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>	
評 価 方 法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	中国語（入門・会話）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	中国語初学者のため「総合」クラスと連携して、基礎を固める。とりわけ中国語においては発音が重要なため、反復練習を行う		
講 義 概 要	<p>「入門」、「会話」を各週 1 コマ開講。「入門」で発音訓練とともに、中国語に関する基本的知識を養う。「会話」では、中国人教員によって日常会話を同じく反復練習し、その表現、リズムを体得する。</p> <p>「入門」では発音の復習、習熟に重点をおき、「総合」クラスの進行に合わせて教材から適宜課題をあげる。「会話」では「総合」クラスの進行に合わせ、対応する会話教材を配布する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「入門」では『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円を使用する。「会話」については追って指示する。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）	
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	中国語（総合）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	---------	------	-----------

講義の目標	中国語初学者のため「入門・会話」クラスと連携して、基礎を固める。中国語と日本語は文字上、近似しているが、全くことなる言語であることを十分留意すること。		
講義概要	週2コマ開講。中国語の発音、基本的な文法事項を身につけることを目的とする。十分習熟するため復習を重視し、期間中に小テストを行う。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『新中国語1』北京語言学院編 中華書店 1,000円 なお、後期、また2年次でもこの教材を使用するため同シリーズの2巻も購入しておくことよい。 ・『中日辞典』小学館 6,976円（小型で廉価な中日辞典もあるが、すぐ使えなくなるのでこの辞書を買うこと。） 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2,200円 	
評価方法			

受講者に対する要望など

年 間 授 業 計 画			
	週	教科書	内 容
	1	1・2課	発音
	2	3・4課	発音
	3	5・6課	発音
	4	7・8課	発音
	5	9・10課	発音
	6	11課	「是」を用いた文（1） 「吗」疑問文
	7	12課	限定語 構造助詞の「的」 疑問代詞を用いた疑問文
	8	13課	「有」を用いた文 限定語となる数量詞 疑問代名詞「几」
	9	14課	総合復習
	10	15課	形容詞述語文 諾否疑問文
	11	16課	動詞述語文
	12	17課 18課	状況語 副詞「都」「也」 復習
13	総合テスト		

科目名	英語 (LR)	担当者名	(後期)児嶋 一男
-----	---------	------	-----------

講義の目標	英語を聴きとる訓練 (30 分) と英文の精読 (60 分)、戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。		
講義概要	1999 年ピューリッツァ賞受賞の戯曲 <i>Wit</i> を精読する。 英会話 CD でリスニングの訓練をする。		
使用教材	テキスト	Margaret Edson: <i>Wit</i> (f&f)	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	毎回の簡単な vocabulary テスト、前期・後期の定期試験など。		
受講者に対する要望など	準備して出席すること。		

科目名	英語 (LR)	担当者名	(後期) 飛田 ルミ
-----	---------	------	------------

講義の目標	英語の 4 技能におけるコミュニケーション活動に必要なスキルを効果的に習得することを目標とし、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の向上を目指す。		
講義概要	<p>リーディングは、ある程度の知的レベルの英文の大意を速く、正確に理解する練習を、現代のイギリスの散文から編集されたテキストを使用して行う。</p> <p>リスニングは現代のアメリカ文化・社会を紹介したビデオ教材、テキスト、プリント等を利用し、4 技能のリスニング、リーディングを中心に英文の大意を速く、正確に把握する訓練を行ないながら異文化理解を深める。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現方法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識したアクティブな学習活動を行ない実際に使える英語能力を身に付ける演習を展開する。</p>		
使用教材	テキスト	Inside Stories U.S.A. ビデオで学ぶアメリカ文化 成美堂 Read and Respond 朝日出版	
	参考文献	授業にて紹介する。	
評価方法	学期末試験、レポート、及び平常点（出席状況、授業内での発言、小テスト等）を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。		

- 1 . 前期学期末テストについて解説
- 2 . Inside Stories U.S.A. (以下 U.S.A.) : Chapter 10
- 3 . Read and Respond (以下 R&R) : Unit 10
- 4 . U.S.A. : Chapter 11
- 5 . R&R : Unit 11
- 6 . U.S.A. : Chapter 12
- 7 . R&R : Unit 12
- 8 . U.S.A. : Chapter 13
- 9 . R&R : Unit 13
- 10 . U.S.A. : Chapter 14
- 11 . R&R : Unit 14
- 12 . U.S.A. : Chapter 15
- 13 . R&R : Unit 15
- 14 . U.S.A. : Chapter 16
- 15 . R&R : Unit 16
- 16 . U.S.A. : Chapter 17
- 17 . R&R : Unit 17
- 18 . U.S.A. : Chapter 18
- 19 . R&R : Unit 18
- 20 . U.S.A. : Chapter 19
- 21 . R&R : Unit 19
- 22 . U.S.A. : Chapter 20
- 23 . R&R : Unit 20
- 24 . 復習および後期学期末テストについて解説

科目名	英語 (LR)	担当者名	(後期)永野 隆行
-----	---------	------	-----------

講義の目標	前期の英語 (LR)での学習を踏まえて、引き続き英語力の向上を目指す。		
講義概要	<p>プログラムは前期英語 (LR)と同様。すなわち週2コマのうち、一方を英語講読(reading)中心、他方を聞き取り(listening)中心の授業として進める。</p> <p>前期の講読中心の授業では、比較的短い英文記事などを対象としていたが、今回は論説文、エッセイなどの長文をテキストとして使用する。細密な和訳にあまりこだわらず、論文全体のポイントを把握することを主眼としたい。担当学生は論文の要約を簡潔にまとめ、さらに疑問点については事前に調べ、授業で発表することが要求される。英文を単に「訳す」のではなく、「読んで理解し」、そこから「情報を得る」ことを目指す。</p> <p>聞き取り中心の授業においては、前期授業での学生の聞き取り能力の上達にあわせて具体的なプログラムを決定する。</p>		
使用教材	テキスト	講読で使用するテキストについては、その都度配布する。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	<p>毎回の出欠、授業態度、学期末の試験などによる総合評価とする。</p> <p>なお購読の授業と聞き取りの授業のどちらか一方でも基準点を満たしていない場合には、たとえ他方の授業で優秀な成績を収めていても、単位を取得することはできない。</p>		
受講者に対する要望など	後期になると、大学にもようやく慣れ、気持ちがゆるみがちになるので、そのようなことのないように十分注意して頂きたい。		

科目名	英語 (SW)	担当者名	(後期)各担当教員
-----	---------	------	-----------

講義の目標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This second term course will entail continuing to build on the skills achieved in the first term, with students acquiring the skills and knowledge needed for future courses, whether language or content based.</p>		
講義概要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goal as laid out in the program goals (above).</p> <p>The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.</p>		
使用教材	テキスト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	スペイン語 (基礎表現・会話)	担当者名	(後期)各担当教員
-------	-----------------	------	-----------

講義の目標	<p>スペイン語 の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(基礎表現)では、(総合)の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。(会話)では、スペイン語 (総合)での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		
講義概要	<p>(基礎表現・会話):(基礎表現)は、(入門)の続きの授業である。(総合)の補いとして、基礎語彙の習得(2000語+)、基礎構文の練習を、(入門)に引き続いてビデオ教材 Viaje al español などを使って行う。また、簡単な解説文、物語を読むことで、読解力獲得の第一歩とする。また、総合の進度にあわせて確認テストを毎回おこなう予定である。(会話)では、基礎語彙を補いながら(総合)の進度にあわせた構文、動詞の活用を使った会話練習をおこない、能動的な聞く能力、話す能力の拡大を目指す。</p>		
使用教材	テキスト	<p>「オーラ・アミーゴス」(芸林書房) そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。(基礎表現・会話)は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が60点未満の場合には、(基礎表現・会話)二単位の評価は、Dとなるので注意のこと。</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	スペイン語（総合）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	<p>スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>スペイン語の中心となる授業である。文法項目をいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p>		
講義概要	<p>（総合）教科書「オーラ・アミーゴス」の文法項目に沿って、7課あるいは8課以降、12課まで学ぶ。主な文法項目は、点過去と線過去の使いかた、命令、接続法の活用と使いかたである。教科書に準拠したテープ教材での練習が入る場合もある。</p>		
使用教材	テキスト	「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	中国語（基礎表現・会話）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	--------------	------	-----------

講義の目標	中国語初学者のため「総合」クラスと連携して、基礎を固める。とりわけ中国語においては慣用表現、四字成句などが重要であり、実用を目的とする学習を行う。		
講義概要	<p>「基礎表現」、「会話」を各週 1 コマ開講。「基礎表現」で発音訓練とともに、中国語に関する基本的知識を養う。「会話」では、中国人教員によって日常会話を同じく反復練習し、その表現、リズムを体得する。</p> <p>多少の中国事情講義をまじえながら、実際の会話に対応できる学力を目指し、「基礎表現」では発音の復習、習熟に重点をおき、「総合」クラスの進行に合わせて各種表現の教材を適宜配布する。「会話」では「総合」クラスの進行に合わせ、対応する会話教材を配布する。</p>		
使用教材	テキスト	「基礎表現」では『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円を使用する。「会話」については追って指示する。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）	
評価方法			
受講者に対する要望など			

科 目 名	中国語（総合）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	---------	------	-----------

講 義 の 目 標	中国語 の内容を十分習熟した後、中級程度の学力達成を目標とする。		
講 義 概 要	週 2 コマ開講。中国語の発音、基本的な文法を前提に応用範囲、語彙の強化などを目的とする。十分習熟するため復習を重視し、期間中に小テストを行う。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	使用教材：『新中国語 1』北京語語学院編 中華書店 1000 円。 使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円 (小型で廉価な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと)	
	参 考 文 献	参考図書：『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円	
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

週	教科書	内 容
1・2	19 課 20 課 21 課	「是」を用いた文(2) 選択疑問文 数の数え方 疑問代名詞「多少」 銭の数え方 名詞述語文 時間詞 主述述語文
3・4	22 課 23 課 24 課 25 課	復習 月日の言い方 二重目的語 前置詞構造 人+「这儿」「那儿」 程度補語
5・6	26 課 27 課 28 課	復習 動詞「在」 存在を表す「在」「有」 方位詞 能願動詞 目的語の前置
7・8	29 課 30 課 31 課 32 課	語気助詞「了」 復習 動詞の完了 副詞「才」と「就」 連動文(1) 序数
9・10	33 課 34 課 35 課	代名詞「每」 構造助詞「的」(2) 「从...起」と「从...到」 構造助詞「地」 復習 結果補語
11・12	36 課	主語や目的語になる動詞(構造) 語気助詞「了」(2) 「要...了」 「以前」と「以后」
13		テスト

科目名	英語 (LR)	担当者名	(前期)阿部 一
-----	---------	------	----------

講義の目標	<p>本講座は現代社会の諸問題を扱った英文を読みながら「実践的な読む力」をつけることと、各ジャンルに関わる「ESP の語彙力」を高めることを目的としている。もちろん、それらを達成するためにはそれぞれの前提となる「スキーマ」力も充実させることが必要なので、これも積極的に取り入れる。</p>		
講義概要	<p>スキーマ・レベルや予備知識のレベルでの予習をしてきてもらった上で、Pre-Reading 活動、Reading 実践・発表、Comprehension といった一連の活動を行なった上で、Vocabulary Strategy、Communicative Activities そして Key Words Network などを解説、発表、練習を通じて行なう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Ferris/Abe, <u>Words for All Occasions-Reading and Vocabulary Practice for College Students</u> (Sanshusha)</p>	
	参考文献	<p>未定（最初の授業で指示する）</p>	
評価方法	<p>前・後期試験もしくは前・後期レポート —— 20% × 2; クラス発表 —— 20% × 2; 出席 —— 10%; 随時の単語テスト —— 10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>クラスでの発表がかなり重要になるので欠席や準備不足は減点される。注意すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション —— 「実践的な読む力」と「実践的な ESP の語彙力」をどうやって高めるか？</p> <p>2. Unit 1 The Changing Face of Banking —— 変動する金融業界 [Vocabulary] 金融用語</p> <p>3. Unit 2 You Are What You Eat ! —— 食こそ生の基本 [Vocabulary] 食品・栄養用語</p> <p>4. Unit 3 It's a Good Time to Be a Pet ! —— ペット狂奏曲 [Vocabulary] 医療用語</p> <p>5. Unit 4 Netiquette (Internet etiquette) —— ネチケットにご用心 [Vocabulary] コンピュータ用語(1)</p> <p>6. Unit 5 Left-Handers Left Out ? —— 左利きは有能なあかし？ [Vocabulary] 日用品用語(1)</p> <p>7. Unit 6 The Science of Eating —— 食品科学をどう考える？ [Vocabulary] バイオテクノロジー用語</p> <p>8. Unit 7 Buying a Cat —— 猫選びは慎重に [Vocabulary] 日用品用語(2)</p> <p>9. Unit 8 A Fisherman's Tale —— 釣り人の時代 [Vocabulary] スポーツ・レジャー用語</p> <p>10. Unit 9 Sleep Tight ! —— 睡眠は人生の礎 [Vocabulary] 日常生活用語</p> <p>11. Unit 10 The Sky is Falling ! —— 謎の飛行物体 [Vocabulary] 宇宙・天文用語</p> <p>12. Special Lesson —— 参考文献や資料を使った特別授業(1) Reading Strategy と Vocabulary Builder</p> <p>13. Special Lesson —— 参考文献や資料を使った特別授業(2) Reading Strategy と Vocabulary Builder</p> <p>14. Unit 11 To Meditate or Not to Meditate —— 瞑想してみますか？ [Vocabulary] 犯罪・事件用語</p> <p>15. Unit 12 Lovely Weather, isn't it ? —— 最先端の天気予報 [Vocabulary] 天気・自然災害用語</p> <p>16. Unit 13 The March of Time —— 時間、時計、そして人間 [Vocabulary] 接頭辞について</p> <p>17. Unit 14 The Perfect Fluke —— ゴルファーの見果てぬ夢 [Vocabulary] ゴルフ用語</p> <p>18. Unit 15 Don't Discard That Relic. —— 骨董ブームはどこまで続く？ [Vocabulary] 美術・芸術用語</p> <p>19. Unit 16 A Tree to Talk to —— 小宇宙としての盆栽 [Vocabulary] 英語になった日本語について</p> <p>20. Unit 17 Is This a Dying Art ? —— 電子メールで変わる生活 [Vocabulary] コンピュータ(2)</p> <p>21. Unit 18 Taking a Company Public —— 起業家新時代 [Vocabulary] 経済・企業用語</p> <p>22. Unit 19 All the Word is a Stage —— 劇場よ、永遠なれ [Vocabulary] 映画・舞台・演劇用語</p> <p>23. Unit 20 New Ways to Treat Animals —— 動物との新しいつきあい方 [Vocabulary] 童謡を楽しむ</p> <p>24. Special Lesson and Consolidation —— 参考文献や資料を使った特別授業(3)と全体のまとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	英 語 (LR)	担当者名	(前期)白鳥 正孝
-------	----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>一年次の基礎の上に立って、聞く能力の伸長をはかる。当面の目標として TOEIC 対策も合わせて考える。また読解力は、和訳でなくパラグラフ・リーディングを目指す。パラグラフごとに大意を把握して何を言っているのかという真の理解を目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>週二時間の内、火曜 2 限をリスニング中心に進め、水曜 2 限を読解力中心に授業を進める。前者は、ABC ニュースから材を採った video を使用し、聴解力の向上をはかる。又毎回 TOEIC 対策に基づく小テストをし、回収して次週には返される。後者はアメリカ文化を広告の分析を通して読む。例を挙げると「相手の目を見て話す」ということがアメリカでは誠実の証とされていることなど。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>1. A. Barry Tomalin, <i>Culture Watch</i>, Prentice Hall, 1994 B. 白野伊津夫他 『TOEIC のリスニング』 弓プレス 1999</p>	
	参 考 文 献	<p>2. ラクトリン井上久美 『広告から見たアメリカ文化』 成美堂 1994</p>	
評 価 方 法	<p>リスニングは平常の小テスト他の総合で評価する。講読は、期末のペーパーテストを中心に平常点を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>英語の大切さも再認識して臨んでほしい。</p>		

- 1 . A . リスニング introduction と Segment 1 前半
B . 講読 “You're Come a Love Way, Baby”
- 2 . A . Segment 1 後半 及び TOEIC Unit 1
B . “The Art of Eye Contact”
- 3 . A . Segment 2 前半 及び TOEIC Unit 2
B . “Basic Jeans. Nothing Superfieial Added”
- 4 . A . Segment 2 後半 及び TOEIC Unit 3
B . “The Price of Success”
- 5 . A . Segment 3 前半 及び TOEIC Unit 4
B . “Be Wicked For a Week. ”
- 6 . A . Segment 3 後半 及び TOEIC Unit 5
B . “To 27 Million Americans, This Scene is a Fairy Tale. ”
- 7 . A . Segment 4 前半 及び TOEIC Unit 6
B . “If You Stick with the Herd. ”
- 8 . A . Segment 4 後半 及び TOEIC Unit 7
B . “Beauty is in the Eye of the Beholder. ”
- 9 . A . Segment 5 前半 及び TOEIC Unit 8
B . “Colt Firearms”
- 10 . A . Segment 5 後半 及び TOEIC Unit 9
B . “Meet the Just in His Tockey. ”
- 11 . A . Segment 6 前半 及び TOEIC Unit 10
B . “Depend Fitted Briefs”
- 12 . A . Segment 6 後半 及び TOEIC Unit 11
B . “Would You Buy a Condom for This Man ? ”

科目名	英語 (LR)	担当者名	(前期) (L)吉成雄一郎 (R)浅岡千利世
-----	---------	------	---------------------------

講義の目標	Reading では現代社会における諸問題を英語で読み、理解するためのストラテジーの習得と内容に関して批判的に考える力を養う。Listening においては、生の英語を聞き取るためのさまざまな練習を行い、リスニング・ストラテジーの修得や関連する語彙力の向上も目指したい。		
講義概要	週 1 コマを Reading 中心とし、もう 1 コマを Listening にあてる。Reading, Listening とも時事問題、環境問題などに関する題材を扱う。Reading に関しては、内容読解に必要なストラテジーの習得向上、語彙習得なども目標とする。また内容に関して授業内に Discussion, Presentation などを行う。Listening では、タスクリスニングなどを通じて、音声変化、推測の練習、キーワードの把握などリスニングに必要なストラテジーも学んでいく。		
使用教材	テキスト	授業の始めに案内する。	
	参考文献	同上	
評価方法	出席、授業参加と態度、小テスト及試験、プレゼンテーションなどを総合して評価する。Reading と Listning の両方を総合して最終的な評価を出す。		
受講者に対する要望など	この授業をとることによって、何を一学期で達成したいか、目標を設定してから参加して欲しい。		

科 目 名	英 語 (SW)	担当者名	(前期)各担当教員
-------	----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This course will build further on the skills acquired in the first year. Students will learn to orally communicate on a wider range of topics and to express their opinions in good written English.</p>		
講 義 概 要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goals laid out in the program.</p> <p>The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	スペイン語（総合・講読）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	--------------	------	-----------

講義の目標	<p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で終えることができなかった比較・接続法現在・接続法過去・未来・過去未来・大過去・関係詞などより高度な文法事項を扱い、会話文を中心に表現力の増強を目的とする。</p> <p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成を行うとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>総合の授業では、Hola, amigos の 10 課、11 課、12 課を終えた後、中級用の教材を用いてその文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。</p> <p>講読の授業では、教科書用に書き直された、平易なスペイン語の物語、評論などを輪読する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>総合：¡Hola, amigos!および担当者指定の教科書 4月に教科書売場で購入のこと。 講読：担当者指定の教材 プリントを用意する予定である。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。この授業は、二コマで一つの成績となる。総合・講読それぞれの担当者のうち、いずれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>会話 1 の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>会話 2 の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p>		
講 義 概 要	<p>会話 1 の授業では、¡Hola, amigos!の 10 課、11 課、12 課を終えた後、中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>会話 2 の授業では、Viaje al español の第一部から第三部半ばまでを順を追って進めていく。第一部については、比較的平易で復習的内容になることが多いが、場面設定にあわせた聞き取り能力の確認の場とする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>会話 1：¡Hola, amigos！および担当者指定の教材 会話 2：プリントを用意する。</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いづれかが 60 点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	中国語（総合・講読）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	------------	------	-----------

講義の目標	中国語の習熟を条件にさらにレベルアップを図る。「会話・LL」クラスと連携して、実用能力を養成する。また長文読解を通じて辞書、参考書、資料の効率的な利用を紹介する。		
講義概要	週2コマ開講。日常会話からあるていどまとまった内容のある会話能力の養成を目指す。十分習熟するため予習を重視し、期間中に小テストを行う。また文学作品、時事資料なども利用して長文読解能力を高める		
使用教材	テキスト	『新中国語 2』、『新中国語 3』北京語言学院編 中華書店 各 1000 円。なお後期以降もこの教科書を使用するので、同シリーズの第 4 巻も購入しておくとい。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと） 参考図書：『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円	
評価方法			
受講者に対する要望など			

週	教科書	内 容	
1	37・38課		
2	39・40課		
3	41・42課		
4	43・44課		
5	45・46課		
6	47・48課	教科書目次順	講読については 教材を配布する
7	49・50課		
8	51・52課		
9	53・54課		
10	55・56課		
11	57・58課		
12	総合復習		
13	総合テスト		

科 目 名	中国語（会話・LL）	担当者名	（前期）各担当教員
-------	------------	------	-----------

講義の目標	<p>「総合」クラスと連携して、レベルアップを図る。とりわけ各種表現、それを用いた作文、スピーチ、挨拶表現などを学ぶ。中国語においては慣用表現、四字成句などが重要であり、さらに知識を充実する。</p>		
講義概要	<p>「会話」を各週1コマ開講。「LL」では特に聞き取り、口頭での各種表現の習熟を図る。「会話」では、中国人教員によって日常会話を含め、より高度な会話、スピーチ、挨拶表現などを反復練習し、その表現、リズムを体得する。</p> <p>多少の中国事情講義をまじえながら、実際の会話に対応できる学力を目指し、「総合」クラスの進行に合わせて各種表現の教材を適宜配布する。「会話」では「総合」クラスの進行に合わせ、対応する会話教材を配布する。</p>		
使用教材	テキスト	『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円を使用する他、適宜教材を配布する。「会話」については追って指示する。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼ねな中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）『日中辞典』小学館。	
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	英語 (LR)	担当者名	(後期)阿部 一
-----	---------	------	----------

講義の目標	<p>本講座はアメリカの言語・文化・社会を扱った英文を読みながら「実践的な読む力」をつけることと、アメリカ文化に関わるの語彙力や表現力を高めることを目的としている。もちろん、それらを達成するためにはそれぞれの前提となる「スキーマ」力も充実させることが必要なので、これも積極的に取り入れる。</p>		
講義概要	<p>スキーマ・レベルや予備知識のレベルでの予習をしてきてもらった上で、Pre-Reading 活動、Reading 実践・発表、Comprehension といった一連の活動を行なった上で、Vocabulary Strategy、Communicative Activities そして Key Words Network などを解説、発表、練習を通じて行なう。</p>		
使用教材	テキスト	P. Aurandt, Paul Harvey's <i>The Rest of the Story</i> . (Kinseido)	
	参考文献	未定(最初の授業で指示する)	
評価方法	<p>試験もしくはレポート —— 40% ; クラス発表 —— 40% ; 出席 —— 10% ; 随時の単語テスト —— 10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>クラスでの発表がかなり重要になるので欠席や準備不足は減点される。注意すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1 . オリエンテーション —— 「アメリカの言語・文化・社会」概説と「実践的な読む力」の高め方</p> <p>2 . Lesson 1 Bad Friday [Vocabulary and its Cultural Background 1]</p> <p>3 . Lesson 2 The Blunder of the Body Snatchers [Vocabulary and its Cultural Background 2]</p> <p>4 . Lesson 3 Oscar [Vocabulary and its Cultural Background 3]</p> <p>5 . Lesson 4 Sparky Was a Loser [Vocabulary and its Cultural Background 4]</p> <p>6 . Lesson 5 See How She Runs [Vocabulary and its Cultural Background 5]</p> <p>7 . Lesson 6 The Prize [Vocabulary and its Cultural Background 6]</p> <p>8 . Lesson 7 The Jerk [Vocabulary and its Cultural Background 7]</p> <p>9 . Lesson 8 Kingdom in a File Drawer [Vocabulary and its Cultural Background 8]</p> <p>10 . Lesson 9 The Secret Scars [Vocabulary and its Cultural Background 9]</p> <p>11 . Lesson 10 Alan's Unabridged [Vocabulary and its Cultural Background 10]</p> <p>12 . Special Lesson —— 参考文献や資料を使った特別授業(1)アメリカ文化について [ビデオ]</p> <p>13 . Special Lesson —— 参考文献や資料を使った特別授業(2)アメリカ文化について [ビデオ]</p> <p>14 . Lesson 11 The All-American House [Vocabulary and its Cultural Background 11]</p> <p>15 . Lesson 12 Danny Went West [Vocabulary and its Cultural Background 12]</p> <p>16 . Lesson 13 Mysterious Benefactor [Vocabulary and its Cultural Background 13]</p> <p>17 . Lesson 14 The Survivor of Little Big Horn [Vocabulary and its Cultural Background 14]</p> <p>18 . Lesson 15 The Rescue of Mary Ellen Connolly [Vocabulary and its Cultural Background 15]</p> <p>19 . Lesson 16 Rern for Your Life [Vocabulary and its Cultural Background 16]</p> <p>20 . Lesson 17 The Reluctant Hangman [Vocabulary and its Cultural Background 17]</p> <p>21 . Lesson 18 Vice-president Who ? [Vocabulary and its Cultural Background 18]</p> <p>22 . Lesson 19 Flynn's Foil [Vocabulary and its Cultural Background 19]</p> <p>23 . Lesson 20 Smile, You're Flying to Cuba [Vocabulary and its Cultural Background 20]</p> <p>24 . Special Lesson —— 参考文献や資料を使った特別授業(3)と全体のまとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	英 語 (LR)	担当者名	(後期)白鳥 正孝
-------	----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>一年次の基礎の上に立って、聞く能力の伸長をはかる。当面の目標として TOEIC 対策も合わせて考える。また読解力は、和訳でなくパラグラフ・リーディングを目指す。パラグラフごとに大意を把握して何を言っているのかという真の理解を目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>週二時間の内、火曜 2 限をリスニング中心に進め、水曜 2 限を読解力中心に授業を進める。前者は、ABC ニュースから材を採った video を使用し、聴解力の向上をはかる。又毎回 TOEIC 対策に基づく小テストをし、回収して次週には返される。後者はアメリカ文化を広告の分析を通して読む。例を挙げると「相手の目を見て話す」ということがアメリカでは誠実の証とされていることなど。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>1 . A . Barry Tomalin, <i>Culture Watch</i> , Prentice Hall, 1994 B . 白野伊津夫他 『TOEIC のリスニング』 弓プレス 1999</p>	
	参 考 文 献	<p>2 . ラクトリン井上久美 『広告から見たアメリカ文化』 成美堂 1994</p>	
評 価 方 法	<p>リスニングは平常の小テスト他の総合で評価する。講読は、期末のペーパーテストを中心に平常点を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>英語の大切さも再認識して臨んでほしい。</p>		

- 1 . A . Segment 7 前半 及び TOEIC Unit 12
B . “Champion Sportswear”
- 2 . A . Segment 7 後半 及び TOEIC Unit 13
B . “Good as Gold”
- 3 . A . Segment 8 前半 及び TOEIC Unit 14
B . “Lunchables”
- 4 . A . Segment 8 後半 及び TOEIC Unit 15
B . “Designate a Driver”
- 5 . A . Segment 9 前半 及び TOEIC Unit 16
B . “Financial World-Reading Between the Lines”
- 6 . A . Segment 9 後半 及び TOEIC Unit 17
B . “Cable TV”
- 7 . A . Segment 10 前半 及び TOEIC Unit 18
B . “No-Switch Sneakers”
- 8 . A . Segment 10 後半 及び TOEIC Unit 19
B . “Moschino”
- 9 . A . Segment 11 前半 及び TOEIC Unit 20
B . “Get the Shape You Love”
- 10 . A . Segment 11 後半 及び TOEIC Unit 21
B . “Images of Reality”
- 11 . A . Segment 12 前半 及び TOEIC Unit 22
B . “Saturn”
- 12 . A . Segment 12 後半 及び TOEIC Unit 23
B . 予備 (又は まとめ)

科目名	英語 (LR)	担当者名	(後期) (L)吉成雄一郎 (R)浅岡千利世
-----	---------	------	---------------------------

講義の目標	Reading では現代社会における諸問題を英語で読み、理解するためのストラテジーの習得と内容に関して批判的に考える力を養う。Listening においては、生の英語を聞き取るためのさまざまな練習を行い、リスニング・ストラテジーの修得や関連する語彙力の向上も目指したい。		
講義概要	週 1 コマを Reading 中心とし、もう 1 コマを Listening にあてる。Reading, Listening とも時事問題、環境問題などに関する題材を扱う。Reading に関しては、内容読解に必要なストラテジーの習得向上、語彙習得なども目標とする。また内容に関して授業内に Discussion, Presentation などを行う。Listening では、タスクリスニングなどを通じて、音声変化、推測の練習、キーワードの把握などリスニングに必要なストラテジーも学んでいく。		
使用教材	テキスト	授業の始めに案内する。	
	参考文献	同上	
評価方法	出席、授業参加と態度、小テスト及試験、プレゼンテーションなどを総合して評価する。Reading と Listning の両方を総合して最終的な評価を出す。		
受講者に対する要望など	この授業をとることによって、何を一学期で達成したいか、目標を設定してから参加して欲しい。		

科目名	英語 (SW)	担当者名	(後期)各担当教員
-----	---------	------	-----------

講義の目標	<p>The overall goal of this program is to build a foundation of communicative competence based on the needs of the students, and in accordance with the overall goals of the department. This course will build further on the skills acquired in the first term. Students will continue to expand their ability to communicate on a wider range of topics and to express themselves in good written English.</p>		
講義概要	<p>While the specifics of how the teaching will be approached is in the domain of each respective instructor, it is expected that students will be concentrating on the output skills of speaking and writing, in accordance with the overall goals laid out in the program.</p> <p>The class-by-class syllabus for the term will be determined by each individual instructor.</p>		
使用教材	テキスト	<p>The specific teaching materials to be used will be determined by each individual instructor.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>The scoring and grading system applied will be determined by each individual instructor.</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	スペイン語（会話）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>会話 1 の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。</p> <p>会話 2 の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、 に引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p>				
講 義 概 要	<p>会話 1 の授業では、中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、論議を定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>会話 2 の授業では、Viaje al español の第三部半ばから、第五部までを順を追って進めていく。第五部はかなり高度になるが、できる限り第五部まで進むことを目標とする。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>会話 1：¡Hola, amigos!および担当者指定の教材。</p> <p>会話 2：プリントを用意する。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	<p>会話 1：¡Hola, amigos!および担当者指定の教材。</p> <p>会話 2：プリントを用意する。</p>	参考文献	
テキスト	<p>会話 1：¡Hola, amigos!および担当者指定の教材。</p> <p>会話 2：プリントを用意する。</p>				
参考文献					
評 価 方 法	<p>平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。</p> <p>この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いづれかが 60 点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	スペイン語（総合・講読）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	--------------	------	-----------

講義の目標	<p>総合の授業では、より高度な文法事項とともによく使われる言い回しを扱い、表現力の増強を目的とする。冠詞、形容詞、再帰動詞、二つの過去形、接続法、関係詞など既出の文法事項についても補いの説明をし、中級文法を終える。</p> <p>講読の授業では、スペイン語圏で通常読まれている物語・小説、評論、新聞記事などを用いて、読解力の養成を行うとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>総合の授業では、中級用の教材を用いてその文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。</p> <p>講読の授業では、平易ではあるがスペイン語圏で普通に読まれている物語、評論などを輪読する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>総合：¡Hola, amigos!および担当者指定の教科書 前期と同じ教材を用いる。</p> <p>講読：担当者指定の教材 プリントを用意する予定である。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。この授業は、二コマで一つの成績となる。総合・講読それぞれの担当者のうち、いずれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。</p>		
受講者に対する要望など			

科 目 名	中国語（会話・LL）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	------------	------	-----------

講義の目標	<p>「総合」クラスと連携して、レベルアップを図る。とりわけ各種表現、それを用いた作文、スピーチ、挨拶表現などを学ぶ。中国語においては慣用表現、四字成句などが重要であり、さらに知識を充実する。</p>		
講義概要	<p>「会話」を各週1コマ開講。「LL」では特に聞き取り、口頭での各種表現の習熟を図る。「会話」では、中国人教員によって日常会話を含め、より高度な会話、スピーチ、挨拶表現などを反復練習し、その表現、リズムを体得する。</p> <p>多少の中国事情講義をまじえながら、実際の会話に対応できる学力を目指し、「総合」クラスの進行に合わせて各種表現の教材を適宜配布する。「会話」では「総合」クラスの進行に合わせ、対応する会話教材を配布する。</p>		
使用教材	テキスト	『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円を使用する他、適宜教材を配布する。「会話」については追って指示する。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼ねな中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）『日中辞典』小学館。	
評価方法			
受講者に対する要望など			

科 目 名	中国語（総合・講読）	担当者名	（後期）各担当教員
-------	------------	------	-----------

講義の目標	中国語・・・の習熟を条件にさらにレベルアップを図る。「基礎表現・会話」クラスと連携して、実用能力を養成する。また長文読解を通じて辞書、参考書、資料の効率的な利用を紹介する。		
講義概要	週 2 コマ開講。日常会話からかなりまとまった内容のある作文能力の養成を目指す。十分習熟するため予習を重視し、作文を重視する。		
使用教材	テキスト	『新中国語 4』北京語言学院編 中華書店 各 1204 円。なおその後もこの教科書を使用するので、同シリーズの最終巻の第 5 巻も購入しておくとい。	
	参考文献	使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと） 参考図書：『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円	
評価方法			
受講者に対する要望など			

週	教科書	内 容	
1	59 課		
2	60 課		
3	61 課		
4	62 課		
5	63 課		
6	64 課	教科書目次順	講読については 教材を配布する
7	65 課		
8	66 課		
9	67 課		
10	68 課		
11	69 課		
12	70 課		
13	総合テスト		

科 目 名	ボランティア論	担当者名	(前期)青柳多恵子
-------	---------	------	-----------

講義の目標	<p>ボランティアは西洋キリスト教思想の慈善型の奉仕精神による、一方通行的な無償性の奉仕を基本としていた。産業革命を境に、社会構造の変革に伴う人々の意識の変化が、個人的なボランティアを組織的・継続性が求められはじめ、ボランティアの原義である自発性〔自主性〕無償制（無給性）・社会性（公益性）が時代の思想的・構造的変化と相まって大きく変化してきた。ボランティア活動の理解はもとより、活動の意義とその必要性を現代文化や科学の発展と同様の行動文化として、その動向と意義を解明し実践していくことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>ボランティアの歴史的変遷と社会状況の変化との関連について検索し、人間の本質ともいえる助け合い・分かち合いとは強者が弱者に与えるものではなく、人は自分自身が困っているときにさえ、自分にできる範囲で他の人を助ける優しい気持ちを持っているのです。産業社会と人間の生活や、人としての本来の生き方である、人間の思いやりや愛情の伝達と人が持つ善意をボランティアという行為によって表現し活用する意義について認識し、ボランティアそのものの量的、質的な関心と参加する事の基本的な見直しと、組織的な協力関係や今や団体のマネジメント能力の確保もこの学問の領域といえます。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>国際的視野に立って考えられる、考えたいとしている学生</p>		

1. 年間ガイダンスとボランティアの変遷と意義
2. ボランティアの基本的コンセプト
3. 世界のボランティア事情
4. 新しい流れと組織
5. 恵みとしての扶助・一方通行的な援助としてのボランティア
6. 日本でのボランティアの歴史 飯島 一彦 教授
7. 地域と活動の必要性...草加市の場合
8. 近代社会のボランティアの特性と救急法 吉田 卓司 非常勤講師
9. ボランティアの双方向性・互酬性の理念
10. 公的・社会的福祉制度・社会保障と民間サービスの将来像
11. 意識革命と行動
12. まとめ

科 目 名	現代世界論	担当者名	有 吉 広 介
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	現代の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。		
講 義 概 要	まず、21 世紀世界のボーダーレス状況を認識するために、経済のボーダーレス化現象に関係が深い「世界的な金融市場」と、社会のボーダーレス化現象の一つ、いわゆる「外国人労働者」とを取り扱う。第 2 に、国際社会において古くて新しい問題である「南北問題」の理解を深める。第 3 に、異文化接触において起こる「言語問題」からボーダーレス現象へのアプローチを示す。第 4 に、異文化理解の手法を「インド・ネパールの文化」研究において学ぶ。最後に、世界的な人口の高齢化状況に関係して、いくつかの国における高齢者の生活および意識と、文化との関係をとらえる。		
使 用 教 材	テキスト	テキストを使わないが、資料を配布する。	
	参考文献	桑原靖夫「国境を越える労働者」(岩波書店) 同著「あなたの隣人外国人労働者」(東洋経済新報社) など。講義時に紹介するものがある。	
評 価 方 法	レポートの評価		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	多面的にサブ・テーマを設定したので、よく出席し、講義の要点をよく把握すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな市場経済では、巨額なおかねが世界的な投機に使われ、一国の政治・経済を揺るがせている。その主役、ヘッジファンドのデリバティブ取引の実態をのぞいてみる。 2. グローバルなマネー市場では、市場同士の競争も激しい。市場の競争力強化と市場の暴走抑制が必要となる。日本の金融ビックバン、アジアの金融危機対応を例として考えてみる。 3. グローバルな世界経済の下、労働力は国境を越えて移動する。しかし不法入国者の急増、経済危機下に強制送還される労働者、母国に戻れない労働者など新たな問題が生まれる。 4. 21世紀に向けて日本は、アジアや南米諸国との関係でいかなる立場に立ち、そして多様化する国際労働力移動の流れにいかに対応すべきなのかを、世界潮流に即して理解したい。 5. 観光、組み立て産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコの国境都市・ティファナに、先進国・アメリカ合衆国と発展途上国・メキシコの文化交流の歴史をみる。 6. 合衆国の圧倒的な影響の下にメキシコ北部においていかにメキシコ性が形成されてきたかという問題を歴史的に追う。 7. 言語を異にする人びとが伝達のために形成する混成的共通語・ピジンの構造と機能を、韓国バンブー英語、中国沿岸ピジン英語などを例にして説明する。 8. 母語になったピジンがクレオールである。ピジンとクレオールの歴史と分布、それに両者の言語的特徴（発音、語彙文法）を問題にする。 9. 異文化理解のよりよい方法は、その文化のなかで生活し、体験を通して文化を理解することである。インド・ネパールでの事例を通して考える。 10. 「計画作成」、「現地での実行」、および「体験の表現」という過程を通じて異文化の理解にいたる手法を考える。 11. 高齢者の生活と意識に関して総務庁が国際比較調査を4回おこなった。この調査の結果を中心に日本、アジア諸国、そして欧米諸国の高齢者の生活の特徴を比較する。 12. 日本、アジア諸国、そして欧米諸国の間にある高齢者の生活と意識の違いがそれぞれの文化と深く関係することを説明する。
----------------------------	---

科 目 名	言語文化概論	担当者名	下 川 浩
-------	--------	------	-------

講義の目標	<p>外国語学部共通の教育目標は、外国語の学習を通じて、そ（れら）の外国語の話される共同体の文化と社会構造を、日本語および日本の文化・社会構造と対照しつつ、知ることである。その際、言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式とは相互に密接な関係にあるということが、自明のこととして前提されている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化の相互関係を概括的に論じることである。</p>		
講義概要	<p>言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式との相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手・主体である民族を中心にすえる必要がある。けれども、同じ（ような）言語を話し、同じような生活を営み、同じように行動し、思考する人々を民族ということについては、今日、事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成される。しかし、生活環境の変化により移動を余儀なくされ、移動がかなわぬようになったのちには、たがいの生活領域と手段を奪い合うことによって、今日のように民族・言語・文化が多様化したのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未完成。（マルチメディア教材使用の予定）</p>	
	参考文献	<p>高崎通浩『改訂版世界の民族地図』（作品社） マイクロソフト『エンカルタ百科事典 2000』 日立デジタル平凡社『世界大百科事典』 マクミラン『エンサイクロペディア・オブ・ワールド・カルチャーズ』 小学館『日本大百科全書』 コムリー他編『世界言語文化地図』 下川 浩『現代日本語構文法』（三省堂）ほか</p>	
評価方法	<p>随時レポートを課し、各自の実績にもとづく自己評価を基本にしたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義という形をとった伝え合いを通じ、話し合いのしかたが学べるように、積極的に質問や意見発表をしてもらいたい。</p>		

1. 人と人とが出合うとき、ふれ合いと伝え合いが起こる。伝え合い（コミュニケーション）とはどういうことか？
2. 伝え合いにはコトバによるものとよらないものがある。コトバによる伝え合いはコトバによらない伝え合いとどう違うのか？
3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどういうものか？
4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？
5. 人種・語族・民族という概念の共通点と相違は？
6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？
7. 文化はどのように形成されてきたか？日本文化とは？
8. 思想・宗教はどのように人々の生活・行動様式と関係し合うのか？
9. 「民族紛争」と「少数民族」の問題をどのように考えるべきか？
10. ふれ合い（社会的相互行為）と伝え合いの原則とは？
11. コトバは事柄をありのままに表現することができない。ウソとコトバの魔術の違いとは？
12. 平和で豊かな国際社会を築くための伝え合いと関わり合いとは？
(以上は予定であるから、講義の展開により、多少のズレ・変更がありうる。)

科 目 名	比較思想概論	担当者名	松 丸 壽 雄
-------	--------	------	---------

講義の目標	日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。		
講義概要	東洋思想と西洋思想とを比較検討する。東洋思想としては、インドのウパニシャッド哲学、ジャイナ教思想、仏教思想、中国の易経などの古代思想、儒教（朱子学等の宋学も含む）、日本では神道、儒学思想、国学思想、日本近代の哲学思想を概観する。西洋思想としては、キリスト教思想（イスラム思想にも触れる）、ドイツ観念論、実存思想、フランスの現象学的思想などに触れる。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示	
評価方法	レポートの内容により評価		
受講者に対する要望など	講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。 2. 比較思想の歴史と方法（1） 3. 比較思想の歴史と方法（2） 4. インドの思想（1） 5. インドの思想（2） 6. 中国の思想（1） 7. 中国の思想（2） 8. 日本の思想（1） 9. 日本の思想（2） 10. 西洋思想（1） 11. 西洋思想（2） 12. 東洋思想と西洋思想の比較・検討。 		

科目名	日本文化論	担当者名	(後期)小島 幸枝
-----	-------	------	-----------

講義の目標	日本文化の諸様相とその特質、および問題点を16、7世紀(大航海時代)のキリシタン資料の実証的研究を通じて明らかにしたい。従ってヨーロッパ文化との比較研究の特徴をもつ。		
講義概要	大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時の日本の政治状態、経済状態、文化、思想、宗教、生活、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と(時には古代日本にも目を向けながら)比較して日本文化の特質を確認していきたい。ビデオテープ(45分もの)を援用する。		
使用教材	テキスト	日本史小百科『キリシタン』(東京堂出版)	
	参考文献	大航海時代叢書(岩波書店) フロイス『日本史』全12巻(中央公論) フロイス『日本史』全5巻(東洋文庫)平凡社 『探訪 大航海時代の日本』全8巻(小学館)	
評価方法	テスト		
受講者に対する要望など	出席を重視する		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の特徴と日本文化(地理的環境と日本民族) 2. 日本の歴史(外来文化との接触交流面からみた) 3. 大航海時代1 - イエズス会来日と日本研究に至るまで 4. 大航海時代2 - イエズス会の日本研究 5. 大航海時代3 - その文献資料の様相 6. 日本人男性の風貌と衣服について 7. 日本人女性の風貌と衣服について 8. 日本人の食事と飲酒の作法 9. 日本の宗教(坊主、ならびにその風習、葬礼、寺院、その宗派の信仰について) 10.(ビデオ鑑賞) - 永年寺の修行 11.(ビデオ鑑賞) - 比叡山千日回峰 12. 日本の病気、医者、および薬について 13. 日本の劇、舞踊、歌、および楽器について 14. ビデオ鑑賞 - 能 15. ビデオ鑑賞 - 狂言 16. 日本語 - 書記言語としての往来物 17. 日本語 - 口頭言語としての敬語法 18. 国の成立(神話にみる日本誕生) 19. 日本の国土 20. 日本人の習慣と価値観 21. 日本人の習慣と価値観 22. 日本の家屋 - (ビデオ鑑賞)合掌造の屋根葺かえ 23. 日本人の死生観 24. 日本の心の美学(ビデオ鑑賞)忠臣蔵 		

科 目 名	日本語研究概論	担当者名	城 田 俊
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	新しい日本語学は言語学の基礎の上に構築する必要がある。講義では言語学の初歩的知識をやさしく説明し、それを出発点にして日本語を眺めると、音声、文法、語彙の水準においてどのような構造・組織・体系が見出されるかを綿密にとく。				
講 義 概 要	新しい言語学の出発点となったソシュールの学説を紹介し、それを発展させていったトルベッコイ、ヤコブソン等々の理論を解説する。「構造」の概念の理解のために重要な音韻論の基礎知識を伝え、その上で日本語の子音体系、母音体系を解明し、基本体系と第二体系の差を説明する。言語（ひいては日本語）がなぜ変化するのか、駆動力は何かを考察する。文法論の分野では文法カテゴリーの言語学的定義を把握し、日本語にはいかなるカテゴリーが存在し、いかなる形態によって表現されているかを観察する。意味論、語彙論の分野では語彙函数の理論を説明し、日本語のコロケーション面に注意を払い、語彙力・文章力の涵養に努める。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>必要な場合プリントして配布する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> トゥルベッコイ 『音韻論の原理』（長嶋 善郎訳・岩波書店） 『ロマン・ヤコブソン選集』1・2（大修館書店） 城田 俊 『日本語の音』（ひつじ書房） 城田 俊 『日本語形態論』（ひつじ書房） 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』（リベルタ出版） </td> </tr> </table>	テキスト	必要な場合プリントして配布する。	参考文献	トゥルベッコイ 『音韻論の原理』（長嶋 善郎訳・岩波書店） 『ロマン・ヤコブソン選集』1・2（大修館書店） 城田 俊 『日本語の音』（ひつじ書房） 城田 俊 『日本語形態論』（ひつじ書房） 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』（リベルタ出版）
テキスト	必要な場合プリントして配布する。				
参考文献	トゥルベッコイ 『音韻論の原理』（長嶋 善郎訳・岩波書店） 『ロマン・ヤコブソン選集』1・2（大修館書店） 城田 俊 『日本語の音』（ひつじ書房） 城田 俊 『日本語形態論』（ひつじ書房） 城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』（リベルタ出版）				
評 価 方 法	定期試験期間中に行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。授業中受講者に質問することがある。授業への積極的参加が望まれる。				

1. コードとメッセージ、ラングとパロルの区別。コードとメッセージの諸関係。引用、固有名詞、語釈話法、人称代名詞。
2. 通時言語学と共時言語学。通時的日本語研究と共時的日本語研究。共時的日本語研究の優位性。共時態から通時態へ。
3. /a/の前にある日本語の子音、子音組織の解明方法。調音点、調音方法、無声性（清音）、有声性（濁音）、非口蓋化性（直音）、口蓋化性（拗音）等の理解。
4. /a/の前の子音の体系の分析。音素とは弁別の特徴の束である。ヒュームの人間の定義(a man is a bundle of a different perceptions)との相似。
5. 子音音素認定の手続き。子音音素体系。/e/の前にある日本語の子音。「中和」、archiphoneme（原音素）とは何か。音素から弁別素性へ。
6. 母音音素認定の手続き。母音音素体系。音声学と音韻論。
7. 基本体系と第二体系。日本語の音節体系の発展。通時態は共時態の中にある。通時と共時の和解。構造的要因。構造主義について。
8. 形態論。文法カテゴリーの研究（1）、動詞の文法カテゴリー。《性》（ジェンダー）、《数》（ナンバー）
9. 《肯定・否定》、日本語の《否定》。
10. 《人称》。《時制》。日本語の《時制》。《相対的時制》（《順序》）と《時制》の区別。
11. 《態》。日本語の《態》と《アスペクト》。《態》と《人称》と《やり・もらい》。
12. 前半まとめ。
13. 《話法》。日本語の《話法》。《伝達話法》（《叙述話法》と《推量話法》）、《呼び掛け話法》（《意志・勧誘話法》と《命令話法》）。
14. 《推量話法》の研究。
15. 語尾形。語幹形（基本語幹形と二次語幹形）結合形。文形の区別、名詞の文法カテゴリー。日本語の《ジェンダー》。助数詞。格。格助詞。副詞格と文法格。格助詞かダの変化形か。
16. 意味論・語彙論・文法論。慣用の研究。語彙函数。構造語彙論。
17. 強め - 強調語。讃え - 称讃語。正しさ - 真正語。
18. 動詞化動詞。始まり - 開始語。終わり - 終止語。完了 - 完了語。続き - 継続語。繰り返し - 反復語。
19. 充たし - 充たし語。生み - 生成語。調え - 調之語。ゼロ化 - 無化語。悪化 - 悪化語。攻撃 - 攻撃語。成果 - 成果語。鳴き声のオノマトペ。
20. コトとコトの参加者（復習）。参加者を示す名詞。時・場所・状況を示す名詞。
21. 助数詞。集合 - 集合語。集団 - 集団語。成員 - 成員語。頭（かしら） - 頭目語。
22. 同義・類義 - 同義語・類義語。敬い - 敬語。反義 - 反義語。
23. 反転 - 反転語。総括 - 総括語。品詞転換 - 品詞転換語。
24. 後半まとめ。全体の展望。試験の概要説明。

科 目 名	スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者名	野々山 ミチコ
-------	-----------------	------	---------

講義の目標	月曜と水曜は別のテーマで授業を行なう。両方ともに別の角度からスペインとラテンアメリカの結びつきを探る。スペイン語圏について研究する場合、その地域で仕事をする場合、最低限度必要な常識を身につけることをめざす。		
講義概要	月曜の授業は言語表現にあらわれたスペイン語圏の人々の発想の特性を考察する。(挨拶、丁寧な表現、名前、謝罪のし方、時間、金銭感覚等) 水曜の授業は植民地史によって、ラテンアメリカの形成の過程を辿り、スペインの遺産は何かを考える。		
使用教材	テキスト	とくになし	
	参考文献	野々山真輝帆「アミーゴとつきあう法」(晶文社) 増田義郎「ラテンアメリカ史」 & (山川出版社) 山田睦郎	
評価方法	テストとレポートによる。出席率も考慮する。		
受講者に対する要望など	日本と比較してスペイン語圏について考えてほしい。		
年 間 授 業 計 画	(月曜日) 言語表現	(水曜日) 植民地史	
	1. プライド	発見	
	2. 挨拶	殖民	
	3. 男と女にかかわる表現	15・16・17世紀のメンタリティ	
	4. "	"	
	5. "	"	
	6. "	18世紀のメンタリティ	
	7. ??		
	8. "	独 立	
	9. "	"	
	10. タブー語 その他	スペインとラテンアメリカ	
	11. "	"	
12. "	"		

科 目 名	現代中国論	担当者名	(前期)辻 康 吾
-------	-------	------	-----------

講義の目標	1999年10月1日、建国50周年を迎えた中華人民共和国は日本の隣国、アジアの大国と言うだけでなく、国際的にもその政治・経済的比重を高めつつある。その中国を理解することは将来中国関係の分野で活動することを希望するものにとって必須の知識である。本講義はこの50年を最新の研究の成果を反映しつつ、中国現代史に関する基礎的理解を図るものである。3年次以降のゼミナールで中国関係のテーマを選ぶ可能性のある者は必ず履修すること。			
講義概要				
使用教材	テキスト	天児慧著『中華人民共和国史』(660円+税)		
	参考文献	岩波書店『原典・中国現代史』全7巻		
評価方法				
受講者に対する要望など				
年 間 授 業 計 画	1	革命前の中国	9	継続革命論
	2	国民党と共産党	10	中ソ論争と核開発
	3	日中戦争	11	文化大革命(1)
	4	新中国の成立	12	文化大革命(2)
	5	社会主義の道	13	四人組失脚と歴史決議
	6	百花斉放と反右派闘争	14	大転換
	7	大躍進と反右傾闘争	15	天安門事件
	8	社会主義教育運動	16	変動する社会

科 目 名	日本思想史	担当者名	川 村 肇
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>日本思想史の概略的な流れを理解した上で、思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかみ、日本と日本人理解を深めていく。 特に近代以前の思想を中心に検討することで、日本の近現代のあり方を相対化する。</p>		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広く日本の思想史を概説する。 2. 江戸時代の思想を儒学を中心に調べ、報告しあう。 3. 江戸時代の思想と近代の思想とのかかわり合いを討議する。 		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献	<p>『日本思想大系』(岩波書店) 『日本近代思想大系』(岩波書店) 子安宣邦『江戸時代思想史講義』 守本順一郎『日本思想史』(全3巻、新日本出版。新書) 丸山眞男『日本の思想』(岩波書店。新書) 丸山眞男『日本政治思想史研究』(東大出版会) 尾藤正英『日本封建思想史研究』(青木書店) 若尾政希『「太平記読み」の時代』(平凡社) 川村肇『在村知識人の儒学』(思文閣) E. H. カー『歴史とは何か』(岩波書店。新書)その他、講義中に紹介する。</p>	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループによる発表と、適宜課すレポート等による。 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者によるグループ作業等を予定しているので、積極的な参加を望む。 ・参考文献に掲げた、丸山眞男『日本の思想』を事前に読了し、簡単なレポートを作成して第一回講義に参加すること(レポート様式は自由)。 ・E-mail が使用できること。 ・学生の理解やグループ作業の進展具合等によって、シラバス通りに進まないことがある。 		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. 思想史とは何か（思想とは何か／歴史とは何か／思想史の対象について／思想史の方法について、他） 3. 日本思想史講義 日本語に見られる日本人の思想／古代の思想 4. 日本思想史講義 仏教思想と日本の中世社会 5. 日本思想史講義 儒学思想と日本の近世社会 6. 日本思想史講義 西洋思想と日本の近代化 7. 日本思想史講義 マルクス主義と日本の近代社会 8. 日本思想史講義 現代思想の状況 9. グループ分け（深めて理解したい思想・思想家別にグループを作る） 10. グループ作業 11. グループ作業 12. グループ作業 13. グループ作業 14. グループによる発表 15. グループによる発表 16. グループによる発表 17. グループによる発表 18. グループによる発表 19. グループによる発表 20. グループによる発表 21. グループによる発表 22. グループによる発表 23. グループによる発表 24. 本講義のまとめ
----------------------------	---

科 目 名	日本文化・芸能論	担当者名	(半期)飯島 一彦
-------	----------	------	-----------

講義の目標	日本の文化とは、長い歴史を経て現在我々の目前に表現される、様々な、有形無形の「精神のかたち」のことをいう。芸能は具体的には「かたち」が固定して残らない文化ではあるが、感覚や精神に直接的に働きかけるといえる点では、「精神のかたち」を考えやすいと言える。本講義は日本の芸能を通して日本の文化を考えていく。		
講義概要	日本の芸能は大雑把に言って、民俗芸能・古典芸能・大衆芸能に分けることができる。このうち民俗芸能・古典芸能は長い期間姿を変えず、文化として考えるとき対象にしやすい安定性を持っている。そこで民俗芸能・古典芸能に見ることができる、日本文化の基盤的発想と表現を、次の7種類のテーマ及びそれに関わる芸能を中心に、映像資料・歴史資料を用いて分析し、論じて行く。1 神の出現と芸能、2 農耕の習俗と芸能、3 歴史の表現と芸能、4 仏教思想と芸能、5 恋愛の表現と芸能、6 まれびとと芸能、7 遊びと芸能と日本文化		
使用教材	テキスト	教室で指示する	
	参考文献	教室で指示する	
評価方法	原則としてレポート、課題としてフィールドワークや舞台芸能の鑑賞を課す場合もある。		
受講者に對する要望など	日本の文化を学び、理解しようとする意欲のない学生は基本的に講義に参加してはいけない。3年生からのゼミで日本の文化・芸能を専攻しようとするものは是非選択してほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、日本文化と芸能、芸能とは 2. 民俗芸能と古典芸能 3. 神の出現と芸能（春日若宮御祭りの芸能） 4. 神の出現と芸能（宮廷神楽） 5. 神の出現と芸能（能の翁など） 6. 農耕の習俗と芸能（中国地方の花田植え） 7. 農耕の習俗と芸能（岩手県の田植え踊り） 8. 農耕の習俗と芸能（青森県のエンブリ） 9. 歴史の表現と芸能（平曲、講談） 10. 歴史の表現と芸能（歌舞伎） 11. 歴史の表現と芸能（出雲神楽、竹富島の芸能など） 12. 仏教思想と芸能（四天王寺精霊会の舞楽） 13. 仏教思想と芸能（儀式と声明） 14. 仏教思想と芸能（毛越寺の延年など） 15. 恋愛の表現と芸能（浄瑠璃） 16. 恋愛の表現と芸能（歌舞伎） 17. 恋愛の表現と芸能（落語などの心中ものなど） 18. まれびとと芸能（鹿踊り） 19. まれびとと芸能（鬼剣舞） 20. まれびとと芸能（各地の盆踊りなど） 21. 遊びと芸能と日本文化（まとめ） 22. 遊びと芸能と日本文化（まとめ） 23. 遊びと芸能と日本文化（まとめ） 24. 予備日
----------------------------	---

科 目 名	日本近現代史	担当者名	齊 藤 博
-------	--------	------	-------

講義の目標	学問的に眞摯に、知的な好奇心と生眞面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。Social Framework としての社会経済構成体の展開と変動に注目しつつも、社会風俗、芸術芸能、思想信仰、政治軍事の領域に関して巾広い考察を開示して行きたい。		
講義概要	世界中でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の「栄光」の土台と、繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。本講は、上記の講義内容をもって問題意識として、課題に、特殊具体的に迫ろうとする。したがって、歴史哲学と歴史論理をおさえながらの実証的なストーリーとなるだろう。		
使用教材	テキスト	齊藤博『概観日本社会経済史』学文社	
	参考文献		
評価方法	前期試験および後期試験によって評価する。テキストをよく読み、講義ノートをきちんと作成して学習した成果が十分に反映した答案を期待している。		
受講者に対する要望など	とにかく講義に出席することに努力すべきである。できるだけ教壇の近くに坐してもらいたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会経済史学の課題 2. 日本に於ける社会経済史学の発達 3. 明治維新の社会経済史的な意義 4. 幕末維新时期 5. 幕末維新时期 6. 明治十年代 7. 明治十年代 8. 日本の産業革命 9. 日本の産業革命 10. 日本の産業革命 11. 大正時代 12. 大正時代 13. 昭和初年代 14. 昭和初年代 15. 昭和十年代 16. 日本資本主義発展の特質と問題点 17. 日本資本主義発展の特質と問題点 18. 戦後日本資本主義発展の時代区分と特色 19. 戦後日本資本主義発展の時代区分と特色 20. 現代農政の展開 21. 近現代日本における産業合理化の実態と課題 22. 近現代日本における婦人労働の様相 23. 現代日本経済の特徴と問題点 24. 現代日本経済の特徴と問題点 		

科 目 名	日本政治外交史	担当者名	森 山 茂 徳
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>幕末の開国から現在に至る日本外交の歩みを、権力構造と国際環境に注目して、全体の流れを一貫する特性が理解できるようにする。日本の外交は国際環境の変化と日本の権力状況の変化とが相互作用し合う過程としてとらえられ、単なる外交史的事実の羅列では理解しえず、構造的・段階的視角が必要である。国際環境の変化に対応して権力状況が変化し、それがまた国際環境に影響を及ぼすという相互関係に注目し、外交政策決定の主体と外交路線の競争的共存、近隣諸国との外交の相違、システムとしての国際環境の変化など、政治学的観点も養う。</p>		
講 義 概 要	<p>全体として時系列に沿って行うが、構造的・段階的視角に基づいて講義する。すなわち、日本外交史の時期区分を、第1期＝幕藩体制の崩壊、第2期＝国民的独立の達成、第3期＝国際協調の時代、第4期＝戦争の時代、第5期＝再出発・復興、第6期＝先進大国日本の外交と6段階に分け、それぞれについて、国際政治システム、日本の権力構造、外交政策の意図と結果とを論じ、どのような因果関係の下で日本外交が変化してきたかを、政治史的観点から論ずる。政治外交の要素と問題点の政治学的理解もめざされ、生き生きとしたイメージをもてるよう解説する。板書が多いが、事前に年表およびプリントを配布する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に用いない。	
	参考文献	<p>池井優『日本外交史概説』慶応通信社（現在、第三版まで） 入江昭『日本の外交』中公新書 坂野潤治『日本政治外交史』放送大学教材 など、講義中に逐次指摘する。参考文献リストも配布する。</p>	
評 価 方 法	<p>前後期各1回の定期試験およびレポートによって決定する。 レポートは夏期休業直前に配布するプリントの中から、適宜1冊以上の参考文献を読み、要約およびコメントを書いてもらう。なお、定期試験時に講義についてのアンケート調査を行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業では一切の私語を厳禁する。板書の量は多いが、その分、日本外交史の流れと政治・外交的思考様式を学ぶことができるので、熱心な学生の出席を希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論。講義概要および参考文献の説明。「外交について(外交の世界)」を入門的に説明する(外交の定義、外交交渉・情報・国益、権力構造と国際環境の関連など)。 2. 幕藩体制の崩壊(1) 前近代東アジア国際秩序と幕藩体制の構造。前近代の中華的国際秩序(朝貢関係)および幕藩体制の構造的特質、対外態度を論ずる。 3. 幕藩体制の崩壊(2) 西欧国際システムと自由貿易帝国主義。西欧国際システム(万国公法体制)を解説し、19世紀後半の自由貿易帝国主義(「非公式帝国」の形成)を論ずる。 4. 幕藩体制の崩壊(3) 幕末に開始された政治変動(自由貿易帝国主義の波及、権力状況の変化)を明治維新まで解説する。政治変動論の理解も深める。 5. 国民的独立の達成(1) 明治外交の出発。維新政府の外交理念、目標、制度・機構、外交主体、初期外交としての領土画定などを論ずる。 6. 国民的独立の達成(2) 明治憲法体制の成立。維新政府の危機的状況認識、諸党派の競争的共存、行政、財政、軍事の一元化(狭義の国家)から政治システムの形成(広義の国家)までを論ずる。 7. 国民的独立の達成(3) 条約改正。幕末に結ばれた不平等条約の改正の歴史を、日本の対欧米外交の推移という視角から論ずる。 8. 国民的独立の達成(4) 東アジア問題。条約改正と表裏一体を成す東アジア国際秩序の模索過程を、中国および朝鮮との関係の変化、脱亜論およびアジア主義と関連させて論ずる。 9. 国民的独立の達成(5) 日清戦争。1890年代の帝国主義の成立という国際政治システムの変化と、その対応としての日清戦争を論ずる。 10. 国民的独立の達成(6) 日露戦争。三国干渉後の東アジア国際関係の流動化が双極化し、日本最大の試練であった日露戦争が起こる。国民的独立の達成である。 11. 国際協調の時代(1) 日露戦後の外交。国民的独立の達成に伴う国家目標の喪失と世代交替という権力状況の変化の中で、日本外交の基軸の模索および満州権益の確立を論ずる。 12. 国際協調の時代(2) 第1次世界大戦と日本。「大正の天祐」=第1次世界大戦への日本の対応を、経済発展、大陸国家化と中国、朝鮮のナショナリズムの発展、国際協調への歩みを論ずる。 13. 国際協調の時代(3) ワシントン体制の成立。国際協調枠組としてのワシントン体制の成立を、大国協調、経済的枠組、アジア・太平洋関係とを関連させて論ずる。 14. 国際協調の時代(4) ワシントン体制下の外交。政党政治の定着という権力状況の変化を前提として、ソ連・中国との関係、朝鮮植民地支配の変化を論ずる。 15. 戦争の時代(1) 満州事変と軍部の台頭。政党政治の変化と軍部の台頭という権力状況の変化を、国際協調主義の崩壊という国際システムの変化と関連させて論ずる。 16. 戦争の時代(2) 日中戦争。満州事変から日中戦争に至る経過を、中国問題解決の路線の対立、軍事クーデタに始まる総動員体制の構築と関連させて論ずる。 17. 戦争の時代(3) 第2次世界大戦(太平洋戦争)。日中戦争から太平洋戦争に至る過程を、日米交渉の挫折、中国問題解決のための様々な工作と関連させて論ずる。 18. 戦争の時代(4) 統制とアジアの占領。1940年体制の確立という政治経済的变化と、アジア占領行政、大東亜共栄圏の特性とを、日本外交の課題という観点から論ずる。 19. 再出発・復興(1) 冷戦と戦後改革。米ソの戦後世界戦略と中国革命、朝鮮戦争による冷戦構造の定着と、敗戦・占領から始まる戦後改革とを関連させて論ずる。 20. 再出発・復興(2) 講和と外交再編成。戦後日本外交の出発となった講和と、アメリカ極東政策の変化に伴う周辺諸国との国交復活・賠償交渉とを関連させて論ずる。 21. 再出発・復興(3) 55年体制の成立。自民党一党優位体制としての55年体制の成立・展開を、日韓復交・沖縄交渉と関連させて論ずる。 22. 先進大国日本の外交(1) 経済開放と緊張緩和。高度経済成長による日本のアジアへの再進出を、国際的緊張緩和の進展と関連させて論ずる。 23. 先進大国日本の外交(2) 脱冷戦と55年体制の崩壊。ソ連の崩壊に端を発する脱冷戦時代の到来と、55年体制の崩壊という権力状況の変化とを関連させて論ずる。 24. 先進大国日本の外交(3) 日本外交の課題。55年体制崩壊後の日本の政治の流動化と、新たな国際貢献の模索、国際的相互依存の進展と関連して論じ、結とする。
----------------------------	--

科 目 名	日本研究特殊講義 A (能楽における中世武士の諸像)	担当者名	瀬 尾 菊 次
-------	-------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	室町期に日本で大成された能が、そのあとの日本の芸能にどのような影響を与えていったかを、能の全体像を解明しながら考察する。また作品に登場する「中世武士」の生涯を通してその時代を読みとき、生活習慣・年中行事など昔から今に伝わる日本人の風習も考察していく。		
講 義 概 要	「判官びいき」の言葉を生み、日本人の考え方に影響を与えた「源義経」を主人公にした能「安宅」が、歌舞伎・映画にどのように取り入れられているかを、ビデオ鑑賞しながら作品研究をし、演技の表現方法を現役の能楽師としての立場から実技をふまえて探っていく。		
使 用 教 材	テキスト	関連資料のコピーを配布	
	参 考 文 献	資料コピーを配布	
評 価 方 法	能の史跡現地取材・講義まとめ・舞台鑑賞感想 以上 三点のレポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	一講義単立ではなく年間通じての連続講義であるので毎時出席を要望する。学問的解釈にとどまらないよう能楽堂での鑑賞を体験してもらおう。		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 年間講義のあらまし。 2. 能楽の概説 3. 能楽の歴史 4. 能楽の諸役 5. 能舞台について 6. 能の現行曲。史跡現地取材との関連 7. 源義経の生涯と時代背景 その1 8. 源義経の生涯と時代背景 その2 9. 能における義経の作品 10. 能「安宅」の解釈と鑑賞 その1 本文解釈 11. " その2 作品ビデオ鑑賞 12. " その3 作品ビデオ鑑賞 13. 歌舞伎「勧進帳」の作品研究 14. 歌舞伎「勧進帳」のビデオ鑑賞 15. 能「安宅」と歌舞伎「勧進帳」との比較 その1 16. " その2 17. 黒沢明監督「虎の尾を踏む男達」の鑑賞 18. 能の演技表現 19. 能「安宅」の作品研究 20. 能の作品構成・現在能と夢幻能 その1 21. " その2 22. 夢幻能の解釈とビデオ鑑賞 その1 23. " その2 24. まとめ
----------------------------	--

科 目 名	日本研究特殊講義 A (日本神話・古代説話の世界)	担当者名	肥田野 昌之
-------	---------------------------	------	--------

講義の目標	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』などの古文獻をよみながら、古代の神話や説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話・説話からさらにギリシア神話など世界各国の神話との類似性や世界大拡布の説話との関連性についても言及したい。		
講義概要	前期は主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭式や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。 後期には、昔話「蛇喰入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など異類婚姻譚といわれるものを中心にして広く伝説や仏教説話について考察してみたい。		
使用教材	テキスト	阿蘇瑞枝他校註『古代説話』笠間書院	
	参考文献	西郷信綱『古事記の世界』(岩波新書)	
評価方法	授業への出席および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献以前の歴史を概観するとともに、年間の講義概要を説明する。 2. 天地創造の神話 - 記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する 3. 黄泉国訪問 - オルペウス型との比較や呪的逃亡譚について - 4. 天の石屋戸神話 - 特に鎮魂祭儀礼との関連について - 5. 八俣大蛇退治 - ベルセウス・アンドロメダ型との比較や生贖伝説について - 6. 大国主神の神話 - 通過儀礼および死と復活・ジェソン型について考える 7. 天若日子神話 - ニムロドの矢との関連および招魂の歌舞 - 8. 国譲りと天孫降臨 - 神々と神社について述べ、大嘗祭との関連についてもふれる。 9. 木花之佐久夜毘売 - 聖婚儀礼について考え、また世界各地の死の起源譚についても考える。 10. 海佐知毘古と山佐知毘古その - 失われた釣針型との比較や隼人舞の起源について 11. 海佐知毘古と山佐知毘古その - 蛇女房・竜女説話との関連について考える。 12. 日本神話のまとめとして、その構造・特色や北方系・南方系などについても考える。 13. 異類婚姻譚について、その - 三輪山型と昔話「蛇髻入」 - 14. 異類婚姻譚について、その - 丹塗矢型（賀茂社縁起）および蟹満寺縁起など 15. 異類婚姻譚について、その - 羽衣説話（白鳥処女説話）と天人女房・鶴女房など - 16. 異類婚姻譚について、その - 浦島説話（仙境淹留譚）と竜宮女房や亀女房 - 17. 異類婚姻譚について、その - 信田妻・女化稲荷と狐女房・芦屋道満大内鑑など - 18. 沙本毘古と沙本毘売 - ヒメヒコ制やヲナリ信仰などについても説明する。 19. 倭建命 - 異常誕生・怪力・クマソ退治・悲劇的末路・神への転生など貴種流離譚との関連でも考える。 20. 天之日矛 - 日光感精説話や卵生説話について述べ、百済・新羅・高句麗や中国説話との関連についても考える。 21. 赤猪子 - 赤猪子説話と皿々山説話について述べ、その歌謡についても考える。 22. まとめとしてプリント四枚を配布し、年度末試験についての出題傾向とその対策を説明する。 23. 筑波と富士・蘇民将来 - 祖神巡行説話・外来者歓待譚および祇園社縁起について - 24. 道場法師譚および力女譚について - 異常出生・異常な怪力・鬼退治など金太郎説話・桃太郎説話との類似についても考える。
----------------------------	--

科 目 名	日本語文法論	担当者名	城 田 俊
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうなると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という内容が明確な語形を混在させるところの「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快な文法が現出する。</p>				
講 義 概 要	<p>下記のテキストに基本的に従い、日本文法の常識的知識を整理する。その上で、語のかたちという観点から、その意味・機能・用法をとらえるよう努める。特に、<u>タベ</u>□のような語尾のかたち、<u>タベサセ</u>(ル)のような語幹のかたち、<u>読ンデイル</u>のような結合的なかたちの区別を学び、文法カテゴリー、テンス、アスペクト、ヴォイス、ムード、やり・もらい等の理解を深める。日本語の語尾形による体系、語幹の拡大によって示される文法形態の体系、語尾形と補助動詞との結合によって示される文法形態の体系をしっかりと把握する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>城田 俊 『日本語形態論』ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> 寺村秀夫 『日本語のシンタクシスと意味』 、 、 くろしお出版 鈴木重幸 『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子 『日本語文法整理読本』バベル・プレス 吉川武時 『日本語文法入門』アルク (NAFL 選書 6) </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	城田 俊 『日本語形態論』ひつじ書房	参 考 文 献	寺村秀夫 『日本語のシンタクシスと意味』 、 、 くろしお出版 鈴木重幸 『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子 『日本語文法整理読本』バベル・プレス 吉川武時 『日本語文法入門』アルク (NAFL 選書 6)
テ キ ス ト	城田 俊 『日本語形態論』ひつじ書房				
参 考 文 献	寺村秀夫 『日本語のシンタクシスと意味』 、 、 くろしお出版 鈴木重幸 『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子 『日本語文法整理読本』バベル・プレス 吉川武時 『日本語文法入門』アルク (NAFL 選書 6)				
評 価 方 法	<p>前期・後期定期試験期間中に一回試験を行う。授業態度も考慮する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。授業中受講者に質問することがある。積極的参加が望まれる。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用 - 語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり。 2. 文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者 - 行為者・対象等、発話行為とその構成者 - 話し手・聞き手・第三者。語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等。 3. 語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用。語尾形：終止形 - 伝達話法と呼掛け話法、伝達話法 - 叙述語法と推量話法、叙述語法 - 現在形と過去形、推量話法。 4. 呼掛け話法 - 命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）。 5. 汎用形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語的つらなりのもととなる汎用形、語形成を行う汎用形 - 複合動詞、名詞形成、否定汎用形）。 6. 語幹形：基本語幹形（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）。 7. 二次語幹形：動詞語幹 - 過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ + 汎用形 + ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ。 8. 傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相 - 段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オウル、ヤメル、ヤム、サス等）。 9. 様態相動詞の形成・意味・用法（続ケル・続ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マウル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加工エル、タリル、ツカレル等）。 10. 将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ） 関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等。 11. 結合形、汎用形ベースの結合形 - 形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの結合形、接続形ベースの結合形：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイクノクル、テミル等。 12. テクレル、テヤル、テモラウ（形成・意味・用法）、前期試験への注意。 13. 文形、文の活用、語法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のバラダイム、文形の語形変化、語法体系、語法 - 叙述話法と推量話法、叙述話法 - 平叙話法と既定話法（いわゆるノダ文）。 14. 平叙話法（形成・意味・用法・待遇）、既定話法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ + 主文とカラ + 主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態汎用形、語的つらなり - ノデアル、ノデナイ、スコープ）。 15. 推量話法、無確信話法 - 無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモシレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）。 16. 確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、結合形）。 17. 準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化） 外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、結合形等）。 18. 待遇 - 通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文 + デスの使用制限、デスとマス、語活用、デシタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）。 19. 主語撲滅論について、主語と術語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト（1）、ト（2）、ヘ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格。 20. 副助詞、完全副助詞、不完全副助詞。 21. 体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞。 22. 日本文法への形態音素論的注解。 23. 文法論（語論と文論）、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か。 24. 復習・整理・まとめ。後期試験に関する注意。
----------------------------	--

科 目 名	日本語音声学	担当者名	城 田 俊
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	日本語音声の实践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としている。		
講 義 概 要	<p>調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。</p> <p>第二部としてある音素論では、位置の差に着目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	城田俊 『日本語の音（おと） 音声学と音韻論』ひつじ書房（テスト版）	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店 	
評 価 方 法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。 受講態度も考慮する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業への積極的参加を望みたい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 部 音声学、単音、ことばの音(おと)、1 単音か 2 単音か。 2. 発音記号、調音器官。 3. 子音と母音(テキスト 1・2・3 併せて 1 - 25 頁)。 4. 子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音。 5. 非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音。 6. 子音の調音、閉鎖音(1)。 7. 閉鎖音(2)。 8. 弱い閉鎖音、摩擦音(テキスト 4・5・6・7・8 併せて 26 - 52 頁)。 9. 弱い摩擦音、破擦音。 10. 鼻音。 11. はじき音、ふるえ音、側面音(テキスト 9・10・11 併せて 52 - 64 頁)。 12. 前期講義の要点の復習。前期試験の概要の説明。 13. 母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」。 14. 母音の調音。 15. 長母音、無声化母音、鼻音化母音(テキスト 13・14・15 併せて 65 - 79 頁)。 16. 日本語の音節、基本体系(伝承された体系、閉鎖体系)、[e][i]に関する規制、[t][ts] [d]に関する規制、[h][]に関する規制、[w]に関する規制。 17. 第二体系(革新体系、開放体系)、両体系の差。 18. 長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語 音節の特徴(テキスト 16・17・18 併せて 80 - 112 頁)。 19. アクセント、共通語のアクセント、その体系の把握。 20. 他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセ ント、意味機能、アクセント核(テキスト 19・20 併せて 113 - 124 頁)。 21. 第 部 音韻論、音素論()、母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素。 22. 音素論()、子音の分布と子音音素。 23. 基本体系と第二体系、文化の問題、「開かれた受容性」と「同化による閉鎖性」。 24. 後期講義の要点の復習。全体の展望。後期試験の概要の説明。
----------------------------	---

科目名	日本語史	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史の変遷を辿ることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>講述にあたっては、時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。</p>		
使用教材	テキスト	山口明穂他編『日本語の歴史』(東大出版会)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7 (平凡社) ・永山勇『国語史概説』(風間書房) ・国語学会編『国語の歴史』(改訂版)(刀江書院) ・「講座解釈と文法」1～7 (明治書院) ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館) ・土井忠生編『日本語の歴史』(至文堂) その他 	
評価方法	前期・後期にレポート各1本		
受講者に対する要望など	<p>日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語学の諸分野 2. 国語史の時代区分 3. 奈良時代 - 上代特殊仮名遣、万葉仮名 4. 奈良時代 - 音韻と文字、カタカナと反切 5. 平安時代 - 平仮名の発明、かなづかいの問題 6. 音韻史（室町時代の音韻、庶民の抬頭） 7. 江戸時代の言語 - 前期 上方文化の音韻 8. 江戸時代の言語 - 後期 江戸文化の音韻 9. 明治時代以降の音韻と文字（ローマ字） 10. 文字史（上代 ~ 現代まで） 11. 文法史の概要 1 12. 文法史の概要 2 13. 文法史の概要 3 14. 語彙史概要 15. 上代の語彙 1 - 日本語系統論との関連 16. 上代の語彙 2 17. 中古の語彙 1 - 男子の漢文訓読文体と女性和文体の関連において 18. 中古の語彙 2 19. 中世の語彙 1 - 軍記物語の語彙 20. 中世の語彙 2 - 抄物とキリシタン物 21. 中世の語彙 3 22. 近世の語彙 1 - 上方文化と江戸文化 23. 近世の語彙 2 - ヨーロッパ文化と翻訳語 24. 21 世紀の日本語への展望
----------------------------	--

科 目 名	対照言語学	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	-------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>二言語間（日本語と他の言語 基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1）それぞれの言語についての体系的知識 2）言語の背景にある発想法 3）第二言語としての日本語習得への干渉 4）日本語教育への応用</p>		
講 義 概 要	<p>対照言語学の目標は二つの言語（この場合は日本語と英語）の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するかを考えて行くことと捉える。その一方で二言語の体系的な知識を得るといった目的も達成するように指導していく。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるか、比較対照することによってかなりのことが予測できる。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。誤用の原因としては中間言語的なものも多くあるが、それが母語からの干渉とはどのように異なるのか、この講義を通じて理解していく。従って、講義の具体的な方法としては、まず誤用の資料を検討・分析し、次に検討した事柄についていろいろな角度から比較対照を試みる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。	
	参 考 文 献	<p>安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店 森田良行『日本語の視点』創拓社 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版 国広哲弥編『日英語比較講座 1 4巻』大修館書店 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版 『講座日本語学』外国語との対照 10、11、12 くろしお出版</p>	
評 価 方 法	<p>1）中間・期末テスト 30% + 30% 2）レポートの発表と提出 30% 3）出席 10% 欠席6回以上は認めない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめておくこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。</p>		

年	前 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	オリエンテーション 語順（説明）
	2	語順 無生物主語の構文（説明） 所有格（説明）
	3	無生物主語の構文 所有格 人称代婦詞・指示代名詞（説明）
	4	人称代名詞・指示代名詞 Of + 名詞 （説明）
	5	Of + 名詞 形容詞・副詞 （説明）
	6	比較級・最上級 形容詞・副詞 自動詞文・他動詞文（説明）
	7	自動詞文・他動詞文 否定（説明）
	8	否定 受動態（説明）
	9	受動態 連体修飾（説明）
	10	連体修飾
	11	連体修飾 仮定法（説明） 話法（説明）
12	仮定法 時制・接続詞	
授	備考	
業	後 期	
	週	主 要 テ - マ
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題発表 各人が自分の課題を決めて発表 ・ 各テーマについての誤用分析 ・ 対照・誤用分析に基づいた日本語の導入と 説明及び練習問題の作成
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
12		
計	備考	

科 目 名	日本語教授法	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。				
講 義 概 要	言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調し、学生には言語運用能力の教育を重視した教案・教材を作成させ、グループワークを通じて言語教育の方法を理解且つ習得させる。文法・語彙指導は特に強調する点で、日本語の文型を言語機能として捉え、それをどのように学習者に紹介・導入するか、導入した後、それをどのような練習を通して習得させるか等、段階的に様々な活動を積み上げていき、最終的には発話場面や文脈に沿った言語運用ができるように指導する方法について学習する。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社 </td> </tr> </table>	テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社
テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “ <i>Teaching Language in Context</i> ” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそ 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社 				
評 価 方 法	1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。 <u>従って6回以上の欠席は認めない。</u>				

年 間 授 業 計 画	前 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	オリエンテーション
	2	コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の要因
	3	言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
	4	教材 1。教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2。その他の専門教材
	5	同上
	6	教室活動と授業分析・教案の書き方
	7	同上
	8	音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
	9	聴解の教材作成と指導 1。初級 2。中級 3。上級 同上
	10	文字表記の指導と教材 1。平仮名・片仮名の導入 2。漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
	11	同上
	12	同上
	備考	
	後 期	
	週	主 要 テ ー マ
	1	読解力の養成 精読・スキミングと教材作成 1。初級 2。中級 3。上級
	2	同上
	3	文法の指導と教材 意味と文型の導入 1。ドリルから応用へ 2。絵教材・その他の教材の作成と検討
	4	同上
	5	同上
	6	会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
	7	同上
8	Video 教材の紹介とその使用方法	
9	同上	
10	作文の指導法と評価の方法	
11	同上	
12	評価とテストの作成法	
備考		

科 目 名	現代思想	担当者名	松 丸 壽 雄
-------	------	------	---------

講義の目標	他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。		
講義概要	日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想および宗教的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。また、コミュニケーション理論や認知科学に多大の影響を与えているコンストラクティヴィズムなどを批判的に取り組み、他者理解の場所の可能性を探る。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示。	
評価方法	レポートの内容により評価。		
受講者に対する要望など	講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。 2. 日本の近代思想（明治期） 3. 日本の近代思想（明治・大正期） 4. 現代日本思想（1）西田哲学 5. 現代日本思想（2）京都学派 6. 現代日本思想（3）その他 7. 中国の思想と宗教（1）儒教 8. 中国の思想と宗教（2）宋学 9. 中国の思想と宗教（3）道教と現代 10. インドの思想と宗教（1）ジャイナ教と唯物論 11. インドの思想と宗教（2）仏教と現代インド 12. インドの思想と宗教（3）ヒンドゥーと現代 13. 現代西洋思想（1）ドイツの実存思想 14. 現代西洋思想（2）ドイツの実存思想（続き） 15. 現代西洋思想（3）ドイツの現代思想 16. 現代西洋思想（4）ドイツの現代思想（続き） 17. 現代西洋思想（5）フランスの実存思想 18. 現代西洋思想（6）フランスの現象学 19. 現代西洋思想（7）フランスの現象学（続き） 20. 現代西洋思想（8）フランスの精神科学 21. 現代思想（1）科学の立場 22. 現代思想（2）科学と哲学 23. 現代思想（3）科学と宗教 24. 現代思想（4）科学と倫理 		

科 目 名	自然言語処理	担当者名	呉 浩 東
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	我々が日常使用している言葉はプログラミング言語とは非常に違った性質を持っており、情報科学の世界ではそれとの区別をするために自然言語と呼んでいる。プログラミング言語が人工的に作られ、はっきりした枠組を持っているのに対して、自然言語の枠組は非常に曖昧である。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する理論や方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付けることを目標とする。		
講 義 概 要	前期は主として、自然言語処理の基礎技術を解説する。ここでは、自然言語の形態素・構文解析、意味解析、辞書やソーラスについての基礎から最新の技術について説明を行い、大量の文例（コーパス）から統計的知識を自然言語処理に応用することについて重点的に解説する。コンピュータを利用して資料やソフトの収集、言語データを用いて演習も行う。後期は自然言語処理の応用技術を解説し、いくつかの応用例を紹介する。特に、校正支援システムや要約システム、機械翻訳システム、対話システム、自然言語理解システムなどの基本技術・基本アーキテクチャを説明する。そして、実際のシステムを使ってシステムを評価し、問題点を検討しながら、これから解決すべき課題を明らかにする。		
使 用 教 材	テキスト	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 「自然言語処理 基礎と応用」田中穂積監修 電子情報通信学会 1999	
	参考文献	(1)「自然言語処理」長尾真編 岩波書店 1996 (2) "Foundations of Statistical Natural Language Processing" C. D. Manning, H. Schutze, MIT Press, 1999 (3) "Foundations of Computational Linguistics (man-machine communication in natural language)" R. Hausser, Springer-Verlag, 1999 (4)「言葉と言語処理」古郡廷治著 昭晃堂 1997 (5)「自然言語処理」石崎俊著 昭晃堂 1997 (6) "Statistical Language Learning" E. Charniak, MIT Press, 1993	
評 価 方 法	提出するレポートと筆記試験の結果を併せて評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「コンピュータ入門」を既修または平行履修のものを対象とします。受け身で聞いているだけでなく、積極的に質問をして欲しい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉とコンピュータ 人工言語、自然言語、自然言語処理の諸問題 2. 形態素解析 形態素解析とは、品詞のタグ付け、日本語と英語の形態素解析実験 3. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正、単語の統計処理、Zipfの法則 4. 言語処理の知識源 電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース 5. オンライン言語資源の使用 インターネットから言語資源の使用方法、市販電子辞書などの使用体験 6. 言語の統計処理(1) コーパスからさまざまな知識の抽出技術 7. 言語の統計処理(2) 希薄的データ問題とその解決方法 8. 構文解析(1) 文の構造、構文木、文法規則、構文解析戦略 9. 構文解析(2) CKY法、チャート法、一般化LR法 10. 構文解析(3) 構文解析における優先規則 11. 意味解析(1) 意味構造、意味解析に用いる知識 12. 意味解析(2) 意味解析の諸手法 13. 語彙的曖昧性 語彙的曖昧性の解消、訳語選択 14. 構文的曖昧性の解消 前置詞句の係り先、等位構造、複雑名詞句構造の解析 15. 文書処理(1) 文章の校正支援 16. 文章処理(2) 文章の要約自動生成システムの構成、使用及び評価 17. 機械翻訳(1) 機械翻訳システムの使用と評価 18. 機械翻訳(2) 機械翻訳の処理方式、機械翻訳システムの種類 19. 文脈解析 談話構造、照応問題の解決 20. 対話システム(1) 発話意図の把握、指示対象と省略の処理 21. 対話システム(2) 対話文の生成、談話生成とプラン 22. 音声対話システム 事例研究、音声認識、未知語の処理 23. マルチモーダル対話システム 基本技術、実験例 24. まとめ 統合的な自然言語処理、自然言語処理と人工知能
----------------------------	--

科 目 名	異文化間コミュニケーション論	担当者名	石 井 敏
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決策を学際的に講ずることを目標とする。異文化間コミュニケーション活動においては、当該の外国語の発音・語彙・文法に関する言語的知識と技能に加えて、異文化間の平等性に基づいて自分と相手の文化の特性を相互に理解し、相互に適したコミュニケーション行動をすることが不可欠である。そこで、人間・文化・コミュニケーションの相関関係を理論と実際の両面から体系的に明らかにすることを目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は、入門、基礎、そして応用の3部より成る。入門の部では、異文化間コミュニケーションの基礎概念と研究目的を明らかにする。基礎の部では、異文化間コミュニケーションの研究手法、言語及び非言語メッセージとコミュニケーションのレベル区分、そして日本社会と異文化間コミュニケーションについて解説する。応用の部では、教育と異文化間コミュニケーション、企業・組織と異文化間コミュニケーション、そして国際場面での異文化間コミュニケーションの諸問題について述べる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	石井敏他編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏他『異文化コミュニケーション』(有斐閣) ・石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』(有斐閣) 	
評 価 方 法	<p>多数の受講者が予想されるので、前期末と後期末の試験の成績による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>学生は英語でノートを取ることが多いので、教科書の指定の箇所を十分に読み、テーマについて予備知識を得てから授業に出席すること。万一欠席する場合には、友人の協力を得て、欠けた部分を早目に補っておくこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の一般的注意。文化とコミュニケーションの相関関係について。教科書 - 1 文化とコミュニケーション。 2. 異文化間コミュニケーションの定義と概念について。教科書 - 2 異文化コミュニケーション。 3. 異文化間の相互理解の重要性と異文化間コミュニケーション能力について。教科書 - 3 異文化相互理解、 - 4 異文化コミュニケーション能力の向上。 4. 異文化共生の概念と実情について。教科書 - 5 異文化が共生できる社会。 5. 異文化間コミュニケーション研究の理論と方法について。教科書 - 1 異文化コミュニケーション研究の歩み、 - 2 異文化コミュニケーションの理論と研究方法。 6. 異文化間コミュニケーションの研究領域と関連諸問題について。教科書 - 3 異文化コミュニケーションの領域、 - 4 異文化コミュニケーションの諸問題。 7. 異文化間コミュニケーションにおける言語メッセージと非言語メッセージについて。教科書 - 5 言語メッセージと記号、 - 6 非言語メッセージ。 8. 異文化間コミュニケーションと対人関係について。教科書 - 7 対人コミュニケーション。 9. 異文化間レトリカル・コミュニケーションについて。教科書 - 8 公的な場でのコミュニケーション。 10. 集団・組織における異文化間コミュニケーションについて。教科書 - 9 集団・組織とコミュニケーション。 11. 文化とマス・コミュニケーションについて、教科書 - 10 マス・コミュニケーション。 12. 文化の概念と特性について。教科書 - 11 文化の独自性と普遍性、 - 12 文化変化と創造性。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人レベルの異文化接触と異文化適応について。教科書 - 13 個人レベルの文化接触。 2. 国家レベルの異文化接触と異文化交流について。教科書 - 14 国家レベルの異文化接触、 - 15 日本の異文化交流史。 3. 日本人のコミュニケーションと日本社会における異文化間コミュニケーションについて。教科書 - 16 日本人のコミュニケーション特性、 - 17 日本社会の特徴と異文化間コミュニケーション。 4. 多文化社会と異文化間摩擦について。教科書 - 18 多文化社会としての日本、 - 19 文化摩擦の諸側面。 5. コミュニケーション教育と言語教育について。教科書 - 1 スピーチ・コミュニケーション教育、 - 2 語学教育(外国語教育と日本語教育) 6. 日本における国際理解教育の目的・方法について。教科書 - 3 国際理解教育。 7. 日本人の海外留学と在日外国人留学生の諸問題について。教科書 - 4 海外留学とカウンセリング、 - 5 外国人留学生の受入れ。 8. 海外子女の異文化適応と帰国子女の帰国ショックについて。教科書 - 6 海外子女と帰国子女。 9. 企業と組織における異文化間コミュニケーションの問題について。教科書 - 7 異文化経営、 - 8 異文化交渉(経済・ビジネス) 10. 異文化間コミュニケーション教育・訓練について。教科書 - 9 異文化コミュニケーション研修。 11. 国際文化交流活動と国際協力における異文化間コミュニケーション。教科書 - 10 国際文化交流、 - 11 国際協力。 12. 会議通訳における異文化間コミュニケーションと先端メディアによる国際コミュニケーションについて。教科書 - 12 国際会議におけるコミュニケーション、 - 13 先端通信メディアと国際コミュニケーション。
----------------------------	---

科 目 名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コーパス言語学入門)	担当者名	井 口 厚 夫
-------	-------------------------------------	------	---------

講義の目標	言語情報解析を目的とする。		
講義概要	Web 上やその他のメディアで入手できる言語データをパソコンを用いて処理し、言語学研究に役立てるようにする。言語データは日本語を基本とする。 なおこの講義は semester 制により後期完結週二日の授業形態である。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	上田博人『パソコンによる外国語研究(2)文字データの処理』くろしお出版	
評価方法	レポート及び授業への貢献度		
受講者に対する要望など	パソコンはあくまでツールとして使う。それ自体が目的ではない。 言語（特に日本語）および言語学の興味を持つ学生に受講してもらいたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨN 2. OS の基礎 (ログイン、メール) 3. エディタ 4. ブラウザ 5. データの収集 1 6. データの収集 2 7. データの検索 1 8. データの検索 2 9. 応用研究 1 10. 応用研究 2 11. データの加工 1 12. データの加工 2 13. 正規表現 1 14. 正規表現 2 15. 応用研究 3 16. 応用研究 4 17. 文法情報 (タグ付け) 18. 形態素解析—茶筌等で— 19. 応用研究 5 20. 応用研究 6 21. コンコーダンス 22. 応用研究 7 (外国人用日本語辞書) 23. 応用研究 8 (外国人用日本語辞書) 24. (予備) 		

科 目 名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者名	呉 浩 東
-------	---	------	-------

講 義 の 目 標	本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。</p> <p>後期は、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。初めに、文字列の基本操作について実例をあげながら解説と実習をする。さらに、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。最後に、機械翻訳について解説し、機械翻訳ソフトウェアを使用して実習しながら自然言語処理の入門知識を学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>(1) 最初の講義で指示する。</p> <p>(2) 随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参考文献	必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。	
評 価 方 法	前・後期各一度のテストと、3～4回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能 2. プログラミング言語とオペレーティングシステム コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI 3. ソフトウェア開発手順 プログラム開発の手順、システム開発の手順 4. Visual Basic プログラミング (1): Visual Basic(VB)とは 画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法 5. Visual Basic プログラミング (2): VB を体験してみる コントロールの配置、プロパティの設定、画面のデザイン 6. Visual Basic プログラミング (3): 何を作ってみよう プログラムのコーディング、実行、保存および呼び出す 7. Visual Basic プログラミング (4): コントロールについて コントロールの種類、プロパティ値の設定 8. Visual Basic プログラミング (5): 画面オデザイン コントロールをデザインするコツ、プロパティの値の取得と演算、メソッド 9. Visual Basic プログラミング (6): データ型と演算子 データ型、変数と定数の宣言、演算子 10. Visual Basic プログラミング (7): ジェネラルプロシージャの活用 Sub プロシージャと Function プロシージャ 11. Visual Basic プログラミング (8): 選択のあるプログラム 選択ステートメント、コントロールの扱い方 12. Visual Basic プログラミング (9): 繰り返しのあるプログラム 各種繰り返し構造 13. Visual Basic プログラミング (1 0): プログラム フォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成 14. Visual Basic プログラミング (1 1): グラフィックス グラフィックスを作る。 15. Visual Basic プログラミング (1 2): ファイル操作 キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成 16. Visual Basic プログラミング (1 3): プログラム (2) 配列を用いた実用プログラム例 17. Visual Basic プログラミング (1 4): プログラムのデバッグ プログラムのデバッグと実行ファイルの生成 18. 自然言語処理 (計算言語学) 入門 人工言語、自然言語、自然言語処理における課題 19. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正 20. 言語処理の知識源 電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース 21. 機械翻訳 (1) 形態素解析 22. 機械翻訳 (2) 構文木、文法規則、構文解析 23. 機械翻訳 (3) 文と単語の意味解析 24. 機械翻訳 (4) 機械翻訳システムの使用と評価
----------------------------	--

科 目 名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者名	高 柳 敏 子
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++によるプログラミングを学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	随時必要な資料をファイルで配布する。	
	参考文献	<p>田中武二著「コンピュータと社会」サイエンス社、1993</p> <p>「CASL Programming」ITEC (情報処理技術者教育センター)、1994</p> <p>Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++超入門」アスキー出版局、1994</p> <p>ストラウストラップ著、斉藤・三次・追川・宇佐美共訳「プログラミング言語 C++」第 2 版、アジソン ウェスレイ・トッパン、情報科学シリ - ズ - 40、1993</p> <p>「岩波 情報科学辞典」岩波書店、1990</p>	
評 価 方 法	前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。 また、欠席をしないこと。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの歴史(1): ハードウェア ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。 2. コンピュータの歴史(2): ソフトウェア プログラミング言語、オペレーティングシステム 3. ノイマン型コンピュータの構成 中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 4. COMET の処理装置(1) 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ(PC) 5. COMET の処理装置(2): レジスタ 汎用レジスタ(GR)、指標レジスタ(XR)、フラグレジスタ(FR) 6. 情報の表現(1): 数値の内部表現 整数と2の補数表記、16進表現 7. CASL プログラミング(1) CASL の命令: 疑似命令、マクロ命令、機械語命令 プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈 8. CASL プログラミング(2) CASL プログラム: ロード命令とストア命令 加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保 9. CASL シミュレータとその実行 プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼び出し 10. CASL プログラミング(3): 乗除算処理(1) シフト演算命令 11. CASL プログラミング(4): 乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ 12. CASL プログラミング(5): 繰り返し処理 指標レジスタの使用 13. CASL プログラミング(6): 情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード、JIS コード 14. CASL プログラミング(7): 入出力命令 コード変換と論理演算 15. CASL プログラミング(8): サブプログラム(1) 汎用レジスタを利用したデータの受け渡し 16. CASL プログラミング(9): サブプログラム(2) アドレスによるデータの受け渡し 17. CASL プログラミング(10): サブプログラム(3) スタックを利用したデータの受け渡し 18. C++プログラミング(1): C++言語とは C++言語の基本事項: 文、ブロック、コメント 19. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳と実行 例題とC++コンパイラの操作 20. C++プログラミング(2): 演算と出力 算術式、四則演算と演算子、シフト演算 21. C++プログラミング(3): 判断・分岐とデータ入力 関係式、関係演算子、論理演算子 22. C++プログラミング(4): 繰り返し 繰り返しと配列の扱い、および文字列データの扱い 23. C++プログラミング(5): 関数(1) メインプログラムとサブプログラム サブプログラムにデータの値を渡す(call by value) 24. C++プログラミング(6): 関数(2) サブプログラムにデータの番地を渡す(call by reference)
----------------------------	---

科 目 名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者名	立 田 ル ミ
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の 1 つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	立田ルミ “ 教育システム情報と Visual Basic ” 朝倉書店	
	参 考 文 献	立田ルミ “ コンピュータとネットワークによる情報活用 ” 朝倉書店	
評 価 方 法	リポート	:	80%
	ネットワーク上に提出		
	出席	:	20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。人数が多い場合は、講義の第 1 日目に抽選を行う。情報処理概論を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成 2. ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95の概略、ネットワークの概略 3. 教育におけるコンピュータの役割、プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間 4. Visual Basic の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド 5. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成：If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題の解説および作成 13. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 14. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 15. 図形の処理（3）：Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす 16. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップを使う 17. 音声の処理：音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション 18. 配列とコントロール配列：一次元配列、コントロール配列、二次元配列 19. プルダウンメニュー：コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用 20. ファイルの利用（1）：コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み 21. ファイルの利用（2）：ランダムファイルの利用：ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み 22. 教育用ソフトの制作（1）：システム設計、詳細設計 23. 教育用ソフトの制作（2）：プログラム作成とデバッグ、デバックツールの利用法 24. 教育用ソフトの制作（3）：プログラム作成とデバッグ
----------------------------	--

科 目 名	地域文化論 i (ラテンアメリカ)	担当者名	(半期)佐藤 勘治
-------	-------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>ラテンアメリカ・カリブ海域研究入門の授業である。一部、アメリカ合衆国の旧メキシコ領地域とラティーノについても扱う。</p> <p>高校レベルのラテンアメリカ関連知識の確認をした上で、ラテンアメリカの歴史・文化・社会について広い教養を身につけると同時に、現代ラテンアメリカの諸問題を考える場としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>まず、歴史と文化について、カルロス・フェンテス『埋められた鏡』のビデオ(スペイン語版。ただし、邦訳がある)を使って基礎的知識を整理していく。また、ラテンアメリカの特質を知るためのカギとして、ラテンアメリカにおける民族・人種概念(先住民・メスティーソ・黒人・アジア系・米国ラティーノ)について、歴史・文化・社会的背景とともに論じたい。授業では、そのほか、ラテンアメリカ・ウオッチのコーナーを設け、ラテンアメリカ関連新聞記事の解説を学生にレポートしてもらうつもりである。また、日本語論文、英語論文、スペイン語でかかれた評論を最低それぞれ一つは読みたい。一方的授業にはしたくない。学生の積極的発言を重視する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	教科書を指定するつもりである。授業中に指示する。	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>基礎知識に関して、ペーパーテストを5月におこなう。</p> <p>期末レポートと授業中のレポート、発言などで総合評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	言語文化学科のスペイン語履修者だけでなく、他学科の受講生も歓迎する。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 授業の説明 (以下、適宜、ラテンアメリカ・ウォッチのレポートをしてもらう)</p> <p>2. ラテンアメリカの形成過程：多様性と統一性（地理）</p> <p>3. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第2巻（征服期）をみながら解説を加える。ビデオ時間は15分程度。関連資料を用意する。以下7回まで同じ。</p> <p>4. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第2巻 植民地期</p> <p>5. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第4巻 独立</p> <p>6. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第4巻 19世紀、20世紀</p> <p>7. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第5巻 現代 ラテンアメリカ部分</p> <p>8. ビデオ『埋められた鏡 El espejo enterrado』第5巻 現代 アメリカ合衆国ヒスパニック部分</p> <p>9. 基礎知識に関するペーパー・テスト</p> <p>10. ラテンアメリカにおける人種構成、人種概念（諸地域の音楽を聞く）</p> <p>11. 先住民とスペイン人征服者との関係について ペルーとヌエバ・エスパーニャ</p> <p>12. ラテンアメリカの宗教 / 「グアダルupesの聖母」の物語をスペイン語で読む</p> <p>13. ラテンアメリカの先住民問題 / 現代グアテマラ、メキシコを中心に リゴベルダ・メンチュー / サパティスタ</p> <p>14. インディオとインディアン</p> <p>15. メスティーソとは？ / 「メスティーソの国」メキシコ</p> <p>16. カリブ海域の特徴 黒人奴隷制と砂糖産業</p> <p>17. クレオール運動 / レゲイ</p> <p>18. 現代のカリブ海・中米地域の諸問題</p> <p>19. 「白人の国」アルゼンチンとチリ</p> <p>20. ラテンアメリカの政治 / ピノチェット問題など</p> <p>21. アルゼンチンに関する邦語論文を読む</p> <p>22. ラテンアメリカのアジア系住民 / ブラジル・ペルーを中心に</p> <p>23. アメリカ合衆国のラティーノ</p> <p>24. ラティーノに関する英語文献を読む</p> <p>25. 予備</p>
----------------------------	---

科 目 名	地域文化論 (スペイン)	担当者名	野々山 ミチコ
-------	--------------	------	---------

講義の目標	スペインの全体像を正しく把握し、過去・現在についてグローバルな理解を養う、ビデオを用いてその一助とする。		
講義概要	月曜の授業はスペイン人の国民性を形成した歴史的背景、また最も魅力的アンダルシア地方とその文化(闘牛・フラメンコ・聖母マリア崇拜)についてもふれる。 水曜の授業はスペイン現代社会の諸問題に焦点をあてる。		
使用教材	テキスト	野々山真輝帆「すがおのスペイン文化史」(東洋書店)	
	参考文献	斉藤孝編「スペイン・ポルトガル現代史」(山川出版社) 野々山真輝帆「スペイン辛口案内」(晶文社)	
評価方法	テストと出席率		
受講者に対する要望など	通史を読んで歴史の流れを理解してほしい。講義はそれを前提にして行なう。		
年間授業計画	(月曜日)	(水曜日)	
	1. スペイン人の国民性	スペインの社会	
	2. "	フアン・カルロス国王	
	3. "	カトリック教会	
	4. "	若 者	
	5. "	麻 薬	
	6. "	カタルニア	
	7. "	バスク	
	8. アンダルシア	女性問題	
	9. 闘 牛	"	
	10. フラメンコ	"	
	11. 聖母マリア崇拜	老 人	
	12. "	ホームレス	

科 目 名	地域文化論 iii (日中文化交渉史)	担当者名	(後期)辻 康 吾
-------	---------------------	------	-----------

講義の目標	中国の文化を考えると、その多様さ歴史の長さから、安易に論じることはできない。一策として歴史的に中国から圧倒的影響を受けながらも、独自性を培ってきた日本文化と比較することによって、中国文化の一側面をより深く理解することが可能と思われる。本講義では古代から現代まで、日中両国の関係を振り返りながら、時代時代での特徴、交流を概括してみたい。			
講義概要				
使用教材	テキスト	山口修著『日中交渉史 文化交流の二千年』東方書店 1600円		
	参考文献	講義の中で紹介		
評価方法				
受講者に対する要望など				
年 間 授 業 計 画	セメスター制のため1回は2コマ			
	1	教科書 1～3章	9	教科書 25～27章
	2	教科書 4～6章	10	教科書 28～30章
	3	教科書 7～9章	11	教科書 31～33章
	4	教科書 10～12章	12	各論 1：言語
	5	教科書 13～15章	13	各論 2：風俗・習慣
	6	教科書 16～18章	14	各論 3：思想
	7	教科書 19～21章	15	
	8	教科書 22～24章	16	

科 目 名	地域文化論 iv (中東)	担当者名	高 橋 正 男
-------	---------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>歴史・民族・宗教（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）をキーワードとしてオスマン＝トルコ帝国の成立（13世紀末 - ）から第一次世界大戦を経て現在に至るまでの中東諸国の複雑な変遷を講述する。</p> <p>受講生各自の自作の中東諸国地図必携。</p>		
講 義 概 要	<p>中東の地理的範囲は時代によって広狭の差がある。東はアフガニスタンもしくはイラン、西は大西洋に面した北アフリカのモロッコもしくはモーリタニア、北はトルコの黒海沿岸、南はウガンダと国境を接しているスーダン南部、緯度でいえば北は北緯 42° 我が国の函館あたり、南は北緯 3° の赤道直下。中東諸国はアラブ諸国（22 箇国）と非アラブ諸国（4 箇国）から成っている。同地は宗教と政治は種々のレベルで緊張関係にある。殆どの国境は歴史的正当性を持たず、その領域は不透明、これが中東地域研究の出発点である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・立山良司編『中東』（第2版）自由国民社、1998年 ・臼杵陽著『中東和平への道』（世界史リブレット52）山川出版社、1999年 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『イミダス』（2000年版）集英社 ・中岡三益著『アメリカと中東--冷戦期中東国際政治史--』中東調査会、1998年 ・木村靖二著『二つの世界大戦』（世界史リブレット47）山川出版社、1999年 ・牟田口義郎著『アラビアのロレンスを求めて -- アラブ・イスラエル紛争前夜を行く--』（中公新書1499）中央公論新社、1999年 ・その都度紹介する。 	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席点と学年末のレポートもしくは筆記試験による。 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<ul style="list-style-type: none"> ・国際ニュースの把握に努めてほしい。 ・少人数の場合はゼミナール形式で行なう。 ・講義資料は出席者にのみ配布する。 ・必要に応じてビデオ教材使用。 		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中東との出会い 2. 中東概観、中東地域概念 3. 中東の民族と宗教(1) 4. 中東の民族と宗教(2) 5. 中東の民族と宗教(3) 6. 日本の中東外交史 7. イスラーム原理主義 8. 近代中東とアラブ民族主義 9. オスマン＝トルコ帝国の興亡 10. トルコの内外情勢 11. ペルシア湾岸諸国 12. イラン(1) ― 近代イランの成立― 13. イラン(2) ― イラン・イラク戦争― 14. パレスティナ問題(1) ― ツォオニズムの展開 15. パレスティナ問題(2) ― 英委任統治の開始 16. パレスティナ問題(3) ― イスラエル建国とパレスティナ民族主義 17. パレスティナ問題(4) ― 中東戦争 18. パレスティナ問題(5) ― パレスティナ暫定自治と今後の課題 19. 国家・民族・アイデンティティ 20. 中東の石油と経済 21. ポスト冷戦期中東と世界 22. 日本の中東政策
----------------------------	--

科 目 名	地域経済論 i (ラテンアメリカ)	担当者名	今 井 圭 子
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	ラテンアメリカはアジア、アフリカとともに発展途上地域に加えられ、政治経済社会の諸側面において様々な低開発の問題を抱えている。この地域は19世紀前半に独立期を迎えたが、それに先立つ3世紀余りの長期にわたって植民地支配を受け、その間に形成された政治経済社会構造の遺制が、今日この地域の発展を阻害する重大な要因の一つになっている。本講義ではラテンアメリカの政治経済を中心に、まずその歴史の変遷過程を辿り、同地域をめぐる国際関係を考察し、さらに現在同地域が抱える主要な政治経済社会問題について考える。				
講 義 概 要	ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史の変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在同地域が抱えている主要な政治経済社会問題を分析し、その根源を探る。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本と同地域との歴史的關係を辿りながら今後の両者の關係のあり方について考える。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1998年</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年 ・小池洋一・西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論 1993年 ・水野一編『日本とラテンアメリカの關係』上智大学イベロアメリカ研究所 1990年 ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究 - 鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所 1985年 ・今井圭子・堀坂浩太郎・斎藤淳『民主化と経済発展 - ラテンアメリカ ABC 三国の経験』上智大学国際關係研究所 1997年 ・グスタボ・アンドラーデ/堀坂浩太郎編『変動するラテンアメリカ社会』彩流社 1999年 </td> </tr> </table>	テキスト	国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1998年	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年 ・小池洋一・西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論 1993年 ・水野一編『日本とラテンアメリカの關係』上智大学イベロアメリカ研究所 1990年 ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究 - 鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所 1985年 ・今井圭子・堀坂浩太郎・斎藤淳『民主化と経済発展 - ラテンアメリカ ABC 三国の経験』上智大学国際關係研究所 1997年 ・グスタボ・アンドラーデ/堀坂浩太郎編『変動するラテンアメリカ社会』彩流社 1999年
テキスト	国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1998年				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年 ・小池洋一・西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論 1993年 ・水野一編『日本とラテンアメリカの關係』上智大学イベロアメリカ研究所 1990年 ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究 - 鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所 1985年 ・今井圭子・堀坂浩太郎・斎藤淳『民主化と経済発展 - ラテンアメリカ ABC 三国の経験』上智大学国際關係研究所 1997年 ・グスタボ・アンドラーデ/堀坂浩太郎編『変動するラテンアメリカ社会』彩流社 1999年 				
評 価 方 法	授業中に何回かリアクション・ペーパーを提出してもらおう。 学期末に筆記試験、以上を合わせて評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業では多岐にわたる内容をわかり易く講義することをめざすので、受講者は授業に出席し、不明な点、納得できない点はどしどし質問すること。				

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序 ラテンアメリカの概観 - ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較の視点について要約した後、ラテンアメリカの自然、住民、文化、宗教について概観する。</p> <p>2. 序 (つづき)</p> <p>3. 第1章 ラテンアメリカ経済史 第1節 時期区分 世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ経済史の時期区分について述べる。</p> <p>4. 第2節 植民地以前の時期 (~15世紀末) コロンブス一行到来前の先住民社会について概観し、アステカ、マヤ、チブチャ、インカの各先住民社会、文明について考察する。</p> <p>5. 第3節 植民地期 (15世紀末~19世紀初め) ラテンアメリカの植民地化の過程、植民地政策、植民地支配の下での先住民社会の変容について説明する。</p> <p>6. 第3節 (つづき)</p> <p>7. 第4節 独立期 (19世紀初め~19世紀半ば) 独立運動高揚の国際的および国内的要因をおさえ、独立運動の思想、担い手、独立闘争の進展過程について説明する。</p> <p>8. 第4節 (つづき)</p> <p>9. 第5節 第一次産品輸出経済確立期 (19世紀半ば~1929年) 独立後の国家建設と経済開発をめぐる政策について解説し、第一次産品輸出経済が確立されていく過程を辿る。</p> <p>10. 第5節 (つづき)</p> <p>11. 第6節 工業化から地域協力に至る時期 (1929年~現在) 1929年大不況がラテンアメリカの政治経済に与えた影響について考察し、ラテンアメリカ諸国の対応策を論じ、第2次世界大戦後の工業化に言及する。</p> <p>12. 第6節 (つづき)</p> <p>13. 第2章 ラテンアメリカ政治経済社会の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済社会問題を経済成長と所得分配、雇用問題、貧困、経済構造、金融問題、経済開発と政治体制、環境問題、ジェンダー(女性問題)、人種と社会階層、対外関係などにまとめて解説し、その対策について考える。</p> <p>14. 第2章 (つづき)</p> <p>15. 第2章 (つづき)</p> <p>16. 第2章 (つづき)</p> <p>17. 第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論(プレビッシュ理論、従属論、構造学派、レギュラシオン学派、新経済自由主義など)をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について論じる。</p> <p>18. 第3章 (つづき)</p> <p>19. 第3章 (つづき)</p> <p>20. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 日本とラテンアメリカの関係を、移民、貿易、投資、援助、外交関係に分けて解説し、今後のあり方について考える。</p> <p>21. 第4章 (つづき)</p> <p>22. 第4章 (つづき)</p> <p>23. 第4章 (つづき)</p> <p>24. まとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	地域経済論 ii (アジア)	担当者名	森 健
-------	----------------	------	-----

講義の目標	<p>世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もこのような固有性を反映する。しかし、経済活動の本質的な部分には各国に共通する法則（普遍的な法則）が働いていることを実感させられる例が多い。この講義の目的は、対象とする国の経済発展の歴史と現状を前記の観点、即ち、固有性と普遍性の発見に努めることにある。今期の授業では、オーストラリアを中心として取り上げ、オーストラリアとの関連において、日本を含むアジア諸国の経済を取り上げる。</p>		
講義概要	<p>オーストラリアは近年、極めてユニークかつ大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議を提唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化推進に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れている国として知られている。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易国であり、有色人種の移民を排除していた国でもある。何故このような政策変換がなされたのか。この変換はどのようになされてきたのか。97年以降のアジア経済危機はオーストラリアにどのような影響を与えているのか。この講義では、このような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、マクロ経済、ミクロ経済、対外取引、政治・社会体制など）から解明する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>竹田いさみ、森 健（編）『オーストラリア入門』（東京大学出版会、1998年6月刊） その他：ビデオ、ハンドアウト（教室で配布）を使用する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>定期試験を中心とし、時折上映するビデオに関して提出して貰うコメント等も参考とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自国以外の国の事情を知ることによって、複眼的な思考ができるようになって貰いたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1 . 週	イントロダクション 地域研究の意義。アジア太平洋地域におけるオーストラリアの位置。
	2 - 4 . 週	歴史と文化 植民地社会の形成。ゴールドラッシュ。牧羊業の発展。1890 年代の恐慌。連邦成立の経緯。 賃金裁定と産業保護。白豪主義。両次大戦と工業化。移民政策。資源ブーム。アジア化。
	5 - 6 . 週	社会 アボリジニ。多文化社会化。労働。社会福祉。教育。
	7 . 週	政治 政治構造と制度。政策推移。
	8 - 9 . 週	外交・安全保障 第 2 次大戦までの政策。冷戦期の政策。ベトナム戦争。冷戦後の政策。政策分野別検討（安全保障、国連外交、非核政策、APEC、経済安全保障と ASEAN、対外援助、難民政策）。
	10 - 11 . 週	経済と貿易 経済構造の特徴と変化。経済政策と環境資源問題。貿易と投資。アジア経済の危機。
	12 . 週	日豪関係 第 2 次大戦前期。第 2 次大戦後。経済摩擦。日本経済の危機。多国間協力関係。

科 目 名	地域経済論 iii (中国)	担当者名	駒 形 哲 哉
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	1997年に「成長」から「危機」に転じたアジア経済に回復の兆しがあらわれ、再び成長のエリアに転じようとしている。そうしたなか、経済改革が正念場を迎えている中国は、経済運営の懸命の舵取りを続けながら、WTO加盟により自らの身を切る改革を加速しようとしている。本講義では、激動の続く東アジア経済について、中国の動向を中心に分析する。受講終了後も履修者に地域経済・国際経済に関心をもち続けてもらうことを最大の目標としている。		
講 義 概 要	下記テキストを用い、アジア諸国との比較のなかで中国経済の一般性、独自性を検討する。月々の新しいトピック、データの読み方についても解説する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	渡辺利夫、加藤弘之、白砂提津耶、文大宇『図説[第2版]中国経済』日本評論社、1999年、本体2300円	
	参 考 文 献	渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、本体2300円	
評 価 方 法	前期、後期各一回、筆記試験を行う。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 東アジア経済の「奇蹟」と「危機」 2. 正念場を迎える中国経済 3. 多様な基礎条件 4. 人口動態（１） - 経済発展と人口 5. 人口動態（２） - 1人っ子政策の経済的根拠 6. 農業発展（１） - 経済発展と農業 7. 農業発展（２） - 特殊な制度と「解体」 8. 郷鎖企業（１） - 旧ソ連の経済改革と違うもの 9. 郷鎖企業（２） - 中国経済を支える主体 10. 工業発展（１） - 特異な発展戦略 11. 工業発展（２） - 発展戦略の転換 12. 工業発展（３） - 国有企業改革 13. エネルギー・交通 - 経済のボトルネック 14. 財政と金融（１） - 財政の役割の変化 15. 財政と金融（２） - 金融の必要性、証券市場 16. 地域の発展 - 経済格差がもたらすもの 17. 貧困と環境 18. 都市の貧困と格差 - 体制をゆるがす課題 19. 貿易と直接投資（１） - 貿易 20. 貿易と直接投資（２） - 直接投資、WTO 21. 香港 22. 台湾
----------------------------	---

科 目 名	比較社会論	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	文化や民族はそれぞれ独自の社会関係のあり方、それについての認識の仕方をもっている。ここでは未開文化における社会関係を取り上げ、これを理解してゆくと同時に、われわれの文化についてもそれとの比較によって考察し、理解を深めようとする。		
講 義 概 要	私が勉強してきた経緯からカリブ海域文化やアフリカ文化に資料をとる。そこにおける家族、血縁、地域社会、階層といった関係や集団の種々相を取り上げ、比較考察し、また日本文化のそれとも比較して、異文化、日本文化それぞれの社会関係の特質を考えていけるように講義をしたい。授業計画については第1回目の授業でその大枠を述べる。		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参 考 文 献	随時紹介する。	
評 価 方 法	登録者の数にもよるが、基本的に試験でと考えている。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	前期の私の地域研究特講を取ったもの、あるいはカリブ海域社会について、歴史その他おおよその知識をもっている人に取ってほしい。		

科 目 名	地域研究特殊講義 A (森林地域における風土と生活)	担当者名	犬 井 正
-------	----------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯林の生態や開発様を考察して、人間と風土との関わりを明らかにしていく。		
講 義 概 要	熱帯林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を地理学的視点から考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境 NGO などのこれまでに果たしてきた役割についても考察する。		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献	クリス・C. パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会 T. C. ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス	
評 価 方 法	定期試験等による		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	継続的に受講すること。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション</p> <p>2. 一次生産者としての森林の重要性</p> <p>3. 世界の森林・日本の森林 - 温量指数と乾燥指数 -</p> <p>4. 熱帯林地域の自然環境の特質</p> <p>5. 熱帯林の森林としての構造 - 熱帯雨林と季節林</p> <p>6. マングローブ林の生態</p> <p>7. 熱帯林の動植物と食物連鎖 - 生物学的多様性</p> <p>8. 熱帯雨林の土壌</p> <p>9. 熱帯林の生態と環境保全機能</p> <p>10. 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域</p> <p>11. 様々な開発形態と開発速度</p> <p>12. 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作</p> <p>13. 人口爆発と集落再編計画</p> <p>14. 商業的木材生産による森林破壊</p> <p>15. プランテーション経営と牧畜業</p> <p>16. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊</p> <p>17. 熱帯林破壊による環境保全機能の低下</p> <p>18. 熱帯林破壊による気候変化と地球温暖化</p> <p>19. 熱帯林破壊の経済・環境・文化の損失</p> <p>20. 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と森林文化の崩壊</p> <p>21. 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策</p> <p>22. 持続可能な森林利用 - エコツーリズムの試み -</p> <p>23. 森林の民から学ぶべき事 - NGO の架け橋</p> <p>24. まとめ - 再考：人間と風土のかかわり</p>
----------------------------	---

科 目 名	地域研究特殊講義 A (カリブ海域の民俗と文化)	担当者名	井 上 兼 行
-------	--------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について概括的な知識を得ると同時にその特質を知る。		
講 義 概 要	カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その基礎の上に社会・文化が築かれている。そこでまず歴史をある程度時間をかけて明らかにする。そのあと複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオール語を中心とした、複雑な言語及び言語構成についても言及する。その他の文化についても述べる機会があると思うが、その間、できるだけ話の脈絡に沿った形でビデオを見てもらい、カリブ海域のイメージをつかんでもらうようにする。		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	随時紹介する。	
評 価 方 法	登録者の数にもよるが、基本的には試験を行って評価するよう考えている。少数ならレポートのみでということもあるし、授業中での試験を加えることもある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. 序 カリブ海域概観
	2. 歴史 (1) コロンブス到来。スペイン人による支配
	3. " (2) 16C後半、英・仏などの新興勢力の侵入、植民地化。
	4. " (3) 17C～18C後半 砂糖きびプランテーションを通じての植民地の繁栄。
	5. " (4) 砂糖貿易衰退、奴隷勢力の伸張。その一つの象徴としてのハイチ独立。
	6. " (5) 19C前半からの奴隷制度廃止。外国からの労働力輸入。そして複雑な民族社会へ。
	7. 民族構成、民族間関係、その意識 (1)
	8. " (2)
	9. " (3)
	10. " (4)
	11. " (5)
	12. " (6)
	13. 多種の言語、その形成、また言語に対する意識 (1)
	14. " (2)
	15. " (3)
	16. " (4)
	17. " (5)
	18. " (6)
	19. 以降は以上の話の脈絡からいくつかの文化についてその特質を述べる。
	20.
	21.
	22.
	23.
	24.

科 目 名	地域研究特殊講義 A (古代ギリシア社会における日常生活)	担当者名	古 川 堅 治
-------	-------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講座は、古代ギリシアの歴史と文化を学ぶことによって、その歴史的特殊性と現代的意義を考えることを目的とするものである。具体的には、ポリス社会の日常生活（市民の政治生活、結婚と家庭、祭と年中行事、男の生活・女の生活、アテナイ民主政と帝国支配、奴隷制と身分制度、ソクラテス裁判の意味するもの、など）を追うことによって、その社会の構造的特質、古代民主政の有様と心性などを明らかにし、併せてポリス成立期のギリシア人の植民活動、ペルシア戦争と東方世界との交流にも触れることによって、古代の地中海地域に展開されたギリシア人の活動の歴史的意味をより深く理解していこうというものである。</p>		
講 義 概 要	<p>講義は概説的に進めていくが、関係するテーマのビデオ、CD・LD、歴史小説などの映像資料や小説を使って理解を深める一助にしたい。毎回できるだけテーマごとに課題を設定して考えていくようにする。この講座は、記憶するとか、暗記するとかというものではないので、アト・ホームな雰囲気、自らの考え、感想などが自発的にわき上がるように期待する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特に使用することはしない	
	参 考 文 献	その都度指摘する	
評 価 方 法	<p>前・後期2回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、枚数、切日等については授業中に指示する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>主体的・積極的な姿勢で参加してくれることを望む。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 「はじめに」
	1 年間授業計画の概要 2 「日常生活史」の意義
	2.(1) ポリスの構造
	3. 1) 空間構造
	2) 社会構造
	4.(2) アゴラでの市民生活
	1) 政治生活(政治活動、弁論術と裁判)
	5. 2) 経済生活(市場、経済活動)
	6. 3) 宗教生活(宗教と祭典)
	ディオニュシア祭(春の祭典 デイオニュシア祭と演劇)
	7. パンアテナイア祭(夏の祭典 パンアテナイア祭と市民の国家意識)
	8.(3) 誕生(女性と子供)
	9.(4) 市民の諸義務(戦争と政治)
	10.(5) 結婚 婚約と結婚準備
	11. 結婚式とその後
	12. 結婚生活
	13. 女の生活
	14. 男の生活
	15. 愛の諸様相
	16.(6) アテナイ民主政と「帝国主義」
	1) 民主政の成立
	17. 2) 民主政の構造
	18. 3) デロス同盟とアテナイ帝国主義
	19. 4) 支配の論理と抵抗の論理
20.(7) 死 葬礼と埋葬(葬礼演説)	
21. 墓と墓碑	
22. 相続をめぐる問題	
23. 死生観	
24. 「まとめ:一年間の総括」	

科 目 名	地域研究特殊講義 A (アラブ文化・芸術)	担当者名	本 田 孝 一
-------	-----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、アラブ文化、特にアラブの芸術を中心に、その特性を考えることを目的とします。またある意味で両端にあるともいえる日本文化とアラブ文化との対比を通して、21世紀の国際化時代の中で異文化間でどう共生していかなければならないかを考えます。</p>		
講 義 概 要	<p>講師の長年にわたるアラブとの関わり、特に講師のアラビア書道家としての活動を通して得た体験を中心にお話しします。授業には映像（ビデオ、スライド等）を多用する予定。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	特にありません。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。(できたら、それを受講生全員参加の作文集として一冊の本にまとめて印刷する予定です。有料)</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講座は人数的に多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室（中教室）の席に座れる人数だけを原則とします。受講したい人はその時間に早めに来て下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. Introduction</p> <p>2. アラブ全体について、「アラブとは何か」を考えます。</p> <p>3. アラブの言語であり、イスラム教の言語でもあるアラビア語について考察します。</p> <p>4. アラブの衣食住研究（1）</p> <p>5. アラブの衣食住研究（2）</p> <p>6. アラブの衣食住研究（3）</p> <p>7. アラブ文化の源である砂漠的文化について、その住民であるベトウインの生活を紹介します。</p> <p>8. 講師のサウジアラビア砂漠での体験を話します。</p> <p>9. アラブの芸術全体について、その特性を考えます。</p> <p>10. アラブの宗教である「イスラム教」について、その誕生の意味や教義について講師の実体験からお話します。</p> <p>11. 映画「アラビアのロレンス」を観ながらアラブと西欧の考え方の違いを探ります。</p> <p>12. 「アラビアのロレンス」の中でロレンスの実像と虚像を探り、彼のアウトサイダー的側面を考えます。</p> <p>13. アラブ芸術の中で最も中心的な位置を占めているアラビア書道芸術の入門（1）</p> <p>14. " (2)</p> <p>15. " (3)</p> <p>16. アラブの装飾美術（トルコやペルシャの細密画など）を鑑賞し、それが持っている意味を探ります。</p> <p>17. エジプト映画「バイナル・カスライン」（エジプトのノーベル賞受賞作家の小説）を観ながらアラブ社会のあり方を考察します。（1）</p> <p>18. " (2)</p> <p>19. アラブの音楽について、その代表的な楽器ウードの演奏を聴きながら考察します。</p> <p>20. 今世紀が生んだアラブ文学の異色作家、詩人であるハリール・ジブラーンについて、彼の代表作『プロフェット』（預言者）を通して紹介します。（1）</p> <p>21. " (2)</p> <p>22. アラブと関わりの深かった『星の王子さま』の著者、サン・テグジュペリについて、彼の代表作の一つ『人間の大地』を通して考察します。</p> <p>23. 受講生の作文集作成の準備。</p> <p>24. まとめ。講師自身のアラブとの書道芸術を通しての将来的関わりをお話します。</p>
----------------------------	---

科 目 名	地域研究特殊講義 A (東西文化を結ぶもの)	担当者名	三 本 茂
-------	------------------------	------	-------

講義の目標	- 東西文化を結ぶもの - ヨーロッパなどの「西洋」とアジアとしてひとまとまりに扱われる「東洋」との間には、「中洋」と呼ばれるべき広大な地域があり、独自の文化を持っている。これらのインドおよびイスラム文化圏についての知識を加えて、我々のヨーロッパやアジアについての理解は確実なものになるであろう。今回は、中洋のうちからインドおよびネパールの両文化圏と、仏教を介して密接な関連性を持つチベットを取り上げる。		
講義概要	インド、ネパール、チベットの歴史の概要を述べ、それぞれの文化の特徴について現地で記録したビデオによって解説する。次いで、各地域を結び付けている宗教として仏教を取り上げ、その伝搬を通じての文化の交流過程について述べる。最後に、中洋の文化の影響がどのような形で我々の日常生活に認められるかについて触れる。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度紹介する	
評価方法	前期：レポート提出 後期：筆記試験		
受講者に対する要望など	質問等で積極的に授業に参加して欲しい。		
年間授業計画	<p>インドの歴史・社会構造・宗教・庶民の暮らし(衣食住) ネパール 同上 チベット 同上 各 6 回 日本と各文化とのつながり 4 回</p>		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (英国人と日本人の生き方の比較)	担当者名	(半期)有吉 広介
-------	---------------------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	現代人における英国人の生活文化あるいはライフスタイルと、日本人のそれらとを社会的なアプローチによって比較研究する。		
講 義 概 要	まず、階級構造に基礎を置く英国の多様な階級的文化、ライフスタイルを明かにする一方、日本では、階層構造の戦後における変化が日本人のライフスタイルを相対的に標準化してきたが、近年階層分化をすすめる傾向があることを説明する。次に、両国における教育制度がそれぞれの独特な学歴主義を発達させる過程を問題にする。第 3 に、両社会における家族生活の類似点と相違点を社会構造および文化構造と関連させて考察する。加えて、二つの社会における性役割の問題に絞る。		
使 用 教 材	テキスト	プリントを配布する。	
	参 考 文 献	適時紹介	
評 価 方 法	前期および後期の終りに提出してもらったレポートを評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	まず出席して説明をよく聞くこと		

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要の説明 2. 英国社会の近代化・産業化 3. 同 4. 日英の家族構造の比較 5. 同 6. 英国における家族の階級的 성격 7. 近年における家族の多様化 8. 日本の近代化と教育構造 9. 同 10. 英国の教育構造 11. 同 12. 社会的・文化的再生産 13. 日本社会の階層構造 14. 同 15. 英国の階級構造の概観 16. 20世紀における英国の階級構造の変化 17. 同 18. 英国の労働階級のライフスタイルの変化 19. 同 20. 英国のミドルクラスの構造的多様性 21. 英国のミドルクラスのライフスタイル 22. 英国の上流階級の社会構造と文化 23. 補足事項 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (東西文化比較)	担当者名	近 衛 秀 健
-------	----------------------	------	---------

講義の目標	東西というが、今の日本の立場はそのどちらでもない奇妙な存在である。明治時代、彼等の生活を先進と見做し、ひたすらこれに近付きあわよくば追越そうとした結果が現日本である。他の未だ自国の伝統ある文化を捨てかね、西欧様式の取り込みをためらっているアジア諸国と比べ優越感にひたったりする事が文化論ではあるまい。現在われわれは大きなディレンマに立たされている。事実の分析により明日の生活の資となるような材料を見つけようではないか。		
講義概要	対象が二つあれば比較できる。“何か”とそれを観察している自分とで二つである。毎日の新聞の記事、過剰なまでの TV 情報に対し、自分が向かいあう。思索により結論がでてくる。千年前の“何か”と現在の自分、一万キロ彼方の“何か”と現在位置にいる自分、何ごとも比較できないものはない。今の日本人は西洋人でも東洋人でもない。乱れとぶ情報に流されず自分の居場所を確保する方法を考えてみよう。		
使用教材	テキスト	随時配布。	
	参考文献	世に参考にならぬ文献など存在しない。しかし全員がこれを読み、それに依って思索乃至行動するなら蟻の集団と変わらない。質問に応じ、読みたい人、調べたい人にはヒントを与えよう。	
評価方法	自分自身の思考能力を問うため、年二回のレポートを課します。		
受講者に対する要望など	これは語学習得などの段階的学習ではない。常に諸君は私と向合い毎時限私と対決する気持でいて欲しい。		
年間授業計画	1. 毎日の情報や、書物の抜粋を材に色々と考えてみる。その内容については情勢の変化に応じ予測できない。 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 同上 22. 同上 23. 同上 24. 同上		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A(ラテンアメリカとアメリカ合衆国)	担当者名	(半期)佐藤 勘治
-------	------------------------------	------	-----------

講義の目標	<p>アメリカ合衆国におけるラティーノ（ラテンアメリカ系住民）人口は、まもなく黒人人口を超え、最大のマイノリティーになるといわれている。メキシコにおいても、1994年「北米自由貿易協定」発効以降、アメリカ合衆国との経済関係は一体化が急激に進んでいる。同じ新世界に登場した二つの文化は、全く質を異にするものと考えられているのが普通だが、その違いはどのように創られたのだろうか。また、この二つの文化は、融合していくのだろうか。米国とラテンアメリカの関係史を論じることで、上記の問題を考えたい。</p>		
講義概要	<p>前半では問題意識の共有をはかるため導入の授業をおこなった上で、米国とラテンアメリカとの関係を歴史的に概観していく。後半では、メキシコと米国の国境地帯形成史を論じ、文化共存、文化融合について、受講者とともに考えたい。授業では、ビデオ映像、音楽、新聞記事などを使って、受講者の知識の補強をはかるほか、参加型の授業にしたいと思う。前期地域文化論ⅰでおこなうラテンアメリカ・ウォッチをこの授業でも随時レポートしてもらう。また、スペイン語文献、英語文献、邦語文献のリーディングレポートも随時課す。受講者数にもよるが、ゼミ形式としたい。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを用意する	
	参考文献	授業で文献目録を配布する	
評価方法	授業中の発言、授業での発表およびレポート		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<p>1.(導入1)シラバスの説明</p> <p>2.(導入2)「ラテンアメリカ」と「アメリカ」</p> <p>3.(導入3)米メキシコ国境地帯の現状/ビデオ「米国の言語事情」スパングリッシュなど</p> <p>4.(導入4)プエルトリコ=米国の内なるラテンアメリカ</p> <p>5.文献購読(邦語、スペイン語)</p> <p>6.文献購読(邦語、スペイン語)</p> <p>7.米・ラテンアメリカ関係史1 米西キューバ戦争/カリブ海での覇権</p> <p>8.米・ラテンアメリカ関係史2 パナマ建国と運河建設/キューバ革命と米国</p> <p>9.米・ラテンアメリカ関係史3 チリ・ニカラグア革命と米国</p> <p>11.米・ラテンアメリカ関係史4 ラテンアメリカからの米国への移民</p> <p>12.文献購読(スペイン語、英語)</p> <p>13.米メキシコ国境地帯形成史1 「占領下のメキシコ」:テキサス独立</p> <p>14.米メキシコ国境地帯形成史2 米メキシコ戦争 /カリフォルニア・アリゾナの形成過程</p> <p>15.米メキシコ国境地帯形成史3 メキシコ北部への米資本進出とアジア系移民</p> <p>16.米メキシコ国境地帯形成史4 メキシコ革命と米国:メキシコ性の追求</p> <p>17.米メキシコ国境地帯形成史5 「北米自由貿易協定」以後</p> <p>18.米メキシコ国境地帯論1 創り出されるメキシコ性:ティファアナとメヒカリ</p> <p>19.米メキシコ国境地帯論2 先住民にとっての国境線:アパッチとヤキ</p> <p>20.米メキシコ国境地帯論3 アジア系住民にとっての国境線</p> <p>21.米メキシコ国境地帯論4 アストランとチカーノ運動</p> <p>22.米メキシコ国境地帯論5 ニューメキシコの混合文化とメキシコ北部の米化</p> <p>23.文献購読(邦語、スペイン語、英語)</p> <p>24.予備</p>
----------------------------	---

科 目 名	国際関係概論	担当者名	有 賀 貞
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>1 国際関係の歴史的展開の概要を述べ、現代の国際関係の歴史的な理解に役立てる。</p> <p>2 現代の国際関係の主要な問題について説明し、現代の国際問題についての基礎的知識と見方とを紹介する。</p> <p>3 国際関係論の主要な理論を解説し、それらの長所と短所について述べる。</p>		
講 義 概 要	<p>国際関係の歴史的展開、 現代国際関係の主要問題、 国際関係の主要理論の3部に分け、年間授業計画に記載した諸テーマを取り上げる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>講義内容に合致する本が日本語テキストがないので、テキストは使用しない。その代わり、ある程度詳しい講義概要を配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>参考文献は開講の際に紹介する。この講義の内容に最も近い本としては <i>The Globalization of World Politics : An Introduction to International Relations</i> ed. by John Baylis and Steve Smith(Oxford University Press, 1997)をあげる。</p>	
評 価 方 法	<p>各学期に期末試験を行い、その平均により評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講義は今年度の英語学科「国際政治論」のa - 1 (b - 2 も同内容) と内容がかなり重複する。「国際政治論」を履修したい言語文化学科の学生諸君は来年度以降に同科目を履修するよう要望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは何か 2. ヨーロッパにおける主権国家システムの成立 3. 西洋世界の拡大と非西洋諸世界 4. 18世紀の革命：自由主義、民主主義、国民主義、全体主義 5. 「ヨーロッパ協調」と「イギリスの平和」 6. 国際的革命運動としての社会主義 7. 帝国主義と帝国主義論 8. 自由主義的民主主義と対抗思想 9. イデオロギー戦争としての第二次大戦と冷戦 10. 植民地の独立の新興国の政治と経済 11. 中国社会主义の変化とソ連・東欧圏の崩壊 12. 「アメリカの平和」 13. 現代の外交 14. 現代の戦争 15. 資本主義の世界化と情報化 16. 欧州統合とその他の地域統合 17. 国際連合と専門的国際機構 18. a 現代国際関係における文化 18. b 現代国際関係と人権・人道問題 19. 現代世界における民族と国家 20. リアリズムの国際関係論 21. 世界システム論 22. リベラリズムの国際関係論 23. 最近の理論状況 24. 21世紀の世界と日本
----------------------------	--

科 目 名	国際機構論	担当者名	松 田 幹 夫
-------	-------	------	---------

講義の目標	国際組織への法的アプローチ		
講義概要	おもな国際組織のみを重点的に説明する。可能な限り”日本との関係”について述べる。講義ノートが大体できているので、計画どおり進行する。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	桜井雅夫『国際機構法』のほか、適宜指示する。	
評価方法	主として前期および後期試験（論述式）で評価を下す。しかし、日常的に地道な努力を払う学生には、なんらかの形で報いるであろう。		
受講者に対する要望など	こつこつノートをとるのみ（人数次第では毎回レジユメを配布する予定）、それに集中すれば、私語も居眠りも不可能。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. 国際組織の歴史 3. 国際連盟の成立と解散 4. 国際連盟の構造と機能 5. 委任統治 6. PCIJ 7. 国連の成立 8. 国連加盟国 9. 国連の構造と機能（1） 10. 国連の構造と機能（2） 11. 国連の集団安保体制 12. PKO 13. 信託統治と非自治地域 14. ICJ（1） 15. ICJ（2） 16. 世界人権宣言の成立まで 17. 国際人権規約の成立以後 18. 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連 19. NATO 20. 欧州統合への動き 21. 欧州統合の始まり 22. ECSC・EEC・EURATOM 23. EC 24. EU 		

科 目 名	地球環境論（地理学）	担当者名	犬 井 正
-------	------------	------	-------

講 義 の 目 的	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講 義 概 要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ T . C . ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ ジョン . C . クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・ 四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス 	
評 価 方 法	前期、後期各1回ずつの定期試験による。		
学 生 へ の 要 望	「経済地理学（犬井担当）」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。 2. 1次生産者としての森林の重要性について。 3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。 4. 熱帯雨林成立の過程と特質。 5. 熱帯雨林の森林としての構造。 6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。 7. 熱帯雨林の生態学的多様性。 8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。 9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。 10. 様々な開発形態と開発速度。 11. 薪炭材の生産と焼畑農耕 伝統的焼畑農耕は破壊か？ 12. 人口爆発と集落再編計画。 13. 商業的木材生産による森林破壊。 14. プランテーション経営と牧畜業。 15. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。 16. VTR『緑を守る男たち』視聴。 17. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。 18. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。 19. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。 20. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境 アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。 21. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。 22. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。 23. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？ 24. まとめ 再考「人間と自然のかかわり」。
----------------------------	--

科 目 名	地球環境論 (植物学)	担当者名	加藤 信重
-------	-------------	------	-------

講義の目標	近年、問題になっている様々な環境問題についての原論文を輪読し、環境問題を理解すること。		
講義概要	身近な環境を理解するため、実際の観察調査も行う。日本語や英語の新聞・雑誌等に目を通す。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	生物学 A、B、自然科学特講の既習者のための科目である。読書することが苦でない学生に限る。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。 2. Nature Watching 1 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える 3. <u>世界の環境問題</u> 1 The Crisis of the Earth (輪読する) 4. <u>世界の環境問題</u> 2 The Crisis of the Earth (輪読する) 5. Nature Watching 2 草加市内を歩く 6. Nature Watching 3 草加市内を歩く 7. <u>日本の環境問題</u> 1 Zero Population Growth (輪読する) 8. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 9. <u>日本の環境問題</u> 2 Minamata Disease (輪読する) 10. <u>日本の環境問題</u> 3 Minamata Disease (輪読する) 11. Nature Watching 4 草加市内を歩く 12. Nature Watching 5 草加市内を歩く 13. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読む 14. <u>トピックス</u> の続き、レポート提出 15. <u>世界の環境問題</u> 3 Silent Spring (輪読する) 16. <u>世界の環境問題</u> 4 Silent Spring (輪読する) 17. <u>世界の環境問題</u> 5 Since Silent Spring (輪読する) 18. <u>世界の環境問題</u> 6 Since Silent Spring (輪読する) 19. Nature Watching 6 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える 20. Nature Watching 7 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える 21. CITES 1 英文・和文の条文を比較する 22. CITES 1 英文・和文の条文を比較する 23. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する 24. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する 		

科 目 名	都市・地域計画論	担当者名	鈴木 隆
-------	----------	------	------

講義の目標	人間の生活の場である都市および地域の現象ならびに計画もしくは政策に関する一般的な理論や方法について学び、さらに、比較的論的な視点も踏まえてヨーロッパにおける都市および地域の状況と政策について知る。それらを通して、都市や地域に対する意識を高め、かつ、ヨーロッパの社会や文化についての理解を深める。		
講義概要	全体の講義は大きく前半と後半に分かれる。前半においては、都市および地域に関するいくつかのことなる視点からの古典的な研究を紹介しながら、既往の理論や方法について学ぶ。後半においては、ヨーロッパの都市と地域のあり方、およびそれらをめぐる政策について学ぶ。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜、紹介する。	
評価方法	試験またはレポートを主たる判断材料とする。そのほか、出席も考慮する。		
受講者に対する要望など	日本と外国の両方に興味をもって臨んで欲しい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市とは何か。 2. ~4. 都市・地域と人口。 5. 地域の構造。 6. 都市の構造。 7. ~8. 土地の価値。 9. ~10. 景観とイメージ。 11. 都市と商業。 12. まとめ。 13. ~18. ヨーロッパの都市と地域。 19. ~24. ヨーロッパの都市計画・地域政策。 <p>なお、以上の年間計画には多少の変更がありうる。</p>		

科 目 名	国際経済論	担当者名	千代浦 昌 道
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>特に指定しない。</p>	
	参 考 文 献	<p>総務庁統計局編『1999世界の統計』（大蔵省印刷局、1997） 西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』（有斐閣、1997） E．F．シューマッハー『スモールイズビューティフル』（講談社、1986） C．キンドゥルバーガー、B．ヘリック『改訂 経済発展論』（好学社、1981） M．トダロ『M．トダロの開発経済学』（国際協力出版会、1997）</p>	
評 価 方 法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済開発論の基礎的概念（経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度） 2. 発展途上国の基本問題（発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存） 3. 発展の非経済的側面 1（経済発展の政治的側面、経済発展の社会文化的要因、発展の社会学的把握） 4. 発展の非経済的側面 2（家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展） 5. 発展の非経済的側面 3（開発と女性の役割、発展途上国の環境問題） 6. 先進工業国経済発展の教訓 1（先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化） 7. 先進工業国経済発展の教訓 2（ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化） 8. 人口と経済開発（人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策） 9. 雇用と失業（発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用） 10. 教育と発展 1（教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困） 11. 教育と発展 2（教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発） 12. 都市と農村（発展途上国の都市と農村、農村 都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門） 13. 経済発展のモデル 1（古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド＝ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説） 14. 経済発展のモデル 2（新古典派の成長モデル、チェネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ＝シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整） 15. 農業と開発（農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発） 16. 工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替工業化と輸出促進工業化） 17. 貿易と発展 1（絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化） 18. 貿易と発展 2（南北問題とプレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序） 19. 貿易と発展 3（自由貿易と NIEs の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展） 20. 多国籍企業と発展途上国（直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国籍企業） 21. 国際収支と債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態） 22. 発展途上国債務問題への国際的対応（世銀・IMF の融資、債務＝環境スワップ） 23. 国際援助と経済開発 1（途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展） 24. 国際援助と経済開発 2（草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助）
----------------------------	---

科 目 名	国際政治論	担当者名	星 野 昭 吉
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存・生活は国際政治の在り方に大きく依存している。人類が直面しているさまざまな具体的問題、すなわち、核拡散問題はじめ、軍拡競争、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の増大、人口・食糧問題、資源・エネルギー問題、人権抑圧、貧困、餓死、社会的不正義などの地球的規模の問題群を検討する。この巨大で、複雑で、流動的で、不確実な国際政治の危機構造の本質、その特徴、その変容、その打破などを解明する。その上で、国際政治の見方・在り方・考え方を提示し、国際政治における我々の存在意義を明らかにする。</p>				
講 義 概 要	<p>今日の国際政治が一体どのような段階にあり、どのような問題を抱えているのか、国際政治が我々の日常生活とどのような関連性をもっているのかを説明しながら、国際政治学の課題を提示する。国際政治の構造的変動としての冷戦崩壊過程とその意義を問いながら、国際政治の新しい枠組みの構造を具体的に見ていく。その中でとりわけ国際政治の基軸であり、最も矛盾した存在である南北問題と第三世界の存在とを抽出・分析する。また、第三世界からの国際政治学の構築を模索する。それを可能にするために、国際政治理論の科学性・イデオロギー性・規範性・変動性について検討することによって、現状維持志向理論を批判しながら、現状変革志向理論の構築を試みる。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・星野昭吉『国際関係の理論と現実 - 世界政治社会システムにおける第三世界 - 』アジア書房、1995年。 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・衛藤瀧吉他『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。 ・初瀬龍平『国際政治学 - 理論の射程 - 』同文館、1993年。 ・星野・臼井編『世界政治学』三嶺書房、1999年 </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・星野昭吉『国際関係の理論と現実 - 世界政治社会システムにおける第三世界 - 』アジア書房、1995年。 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・衛藤瀧吉他『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。 ・初瀬龍平『国際政治学 - 理論の射程 - 』同文館、1993年。 ・星野・臼井編『世界政治学』三嶺書房、1999年
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・星野昭吉『国際関係の理論と現実 - 世界政治社会システムにおける第三世界 - 』アジア書房、1995年。 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・衛藤瀧吉他『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。 ・初瀬龍平『国際政治学 - 理論の射程 - 』同文館、1993年。 ・星野・臼井編『世界政治学』三嶺書房、1999年 				
評 価 方 法	<p>前期のレポート、後期のテスト、出欠状況を総合して評価する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>すべてをテキスト通りにやるのでないので、必ずノートをとってほしい。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際政治（世界政治）の現在、国際政治学の課題。 2. 国際政治の構造的変動 冷戦構造崩壊過程とその意味 。 3. 国際政治の新しい枠組み 1：冷戦崩壊後の基本的動向。 4. 国際政治の新しい枠組み 2：湾岸危機・戦争と世界秩序。 5. 国際政治の新しい枠組み 3：ソ連邦の解体と世界秩序。 6. 国際政治の新しい枠組み 4：日米関係と世界秩序。 7. 国家の機能変容と国際体系（国家体系）相互依存関係と脱国家主体。 8. 国際政治学の発展過程 1：第一次大戦後の国際政治学の成立とその後。 9. 国際政治学の発展過程 2：第二次大戦後から現代まで。 10. 国際政治（関係）理論と現実世界。 11. 理論の意味とその構成条件。 12. 国際政治の分析レベルと分析方法。 13. 実証主義理論の構造と問題 現実主義理論と新現実主義理論 。 14. 脱実証主義理論の構造と特徴 批判理論と脱近代主義理論 。 15. 現状維持志向理論 1。 16. 現状維持志向理論 2。 17. 現状変革志向理論。 18. 国際政治理論のイデオロギー性。 19. 国家 構造の弁証法 動態的構造化理論を中心として 。 20. 世界政治社会システムにおける規範の役割 配分的正義を中心として 。 21. 国際システムの変動と第三世界 1。 22. 国際システムの変動と第三世界 2。 23. 第三世界からの国際政治学の構築 1。 24. 第三世界からの国際政治学の構築 2。
----------------------------	--

科 目 名	国際交流研究特殊講義 A (キリスト教と日本文化)	担当者名	(半期)中島 文夫
-------	---------------------------	------	-----------

講義の目標	我が日本がキリスト教をどのように受容したかを歴史的に跡づけ、また、その過程においてキリスト教が日本の文化にどのような影響を及ぼしたかを見る。		
講義概要	テーマ:「キリスト教と日本文化」 切支丹時代から現代に至るまで、キリスト教が日本にどのように受け入れられて行ったかを歴史的に考察し、折にふれてキリスト教が日本文化に及ぼした影響について考える。		
使用教材	テキスト	使用しない予定。ただし、講義の概要をプリントにして配布する。	
	参考文献	講義中に、必要に応じて提示する。	
評価方法	期末に筆記試験またはレポートを課する予定である。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚だしく欠席の多い者には単位を与えない。		
受講者に対する要望など	特に予備知識を要求しないが、旺盛な知的好奇心を期待する。また、講義者及び同僚履修者に対して、節度あるマナーを心がけてもらいたい。		
年間授業計画	後期のみ、週 2 回の授業となる。詳細な講義計画は後期開講時に提示する。		

科 目 名	国際交流研究特殊講義 A (地域で暮らす視点)	担当者名	三 本 茂
-------	-------------------------	------	-------

講義の目標	- 地域で暮らす視点 - 異なる文化圏や社会で生活している人々と、如何にして心理的・日常行動のレベルで理解し共同できるかについて体験を踏まえて考える機会を作る。		
講義概要	インド・ネパール・チベットの各文化圏の特徴について述べ、地域間の交流が過去においてどのように行われてきたかを述べる。また、文化の交流の媒体としての宗教の役割についても考えて見たい。最後に、自身のネパールにおける体験を通じて、地域の人々とのお互いの理解がどのような手順で進み、どの程度可能であったかを述べたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度紹介する	
評価方法	前期：レポート 後期：筆記試験		
受講者に対する要望など	参考文献などを最低ひとつは読むこと。		
年間授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドの日常生活・ネパールの日常生活・チベットの日常生活 各6回 ・ 地域のひとびととの交流の事例 4～5回 		